

## エゼキエル書

## 第一章 第三十年四月五日に、わたしがケバ

ル川のほとりで、捕囚の人々のうちにいた時、天が開けて、神の幻を見た。これはエホヤキン王の捕え移された第五年であつて、その月の五日に、主の言葉がケバル川のほとり、カルデヤびとの地でブジの子祭司エゼキエルに臨み、主の手がその所で彼の上にあつた。

四 わたしが見ていると、見よ、激しい風と大いなる雲が北から来て、その周囲に輝きがあり、たえず火を吹き出していた。その火の中に青銅のように輝くものがあった。五 またその中から四つの生きものの形が出てきた。その様子はこうである。彼らは人の姿をもっていた。六 おのおの四つの顔を持ち、またそのおのおのに四つの翼があつた。七 その足はまっすぐで、足のうらは子牛の足のうらのようであり、みがいた青銅のように光っていた。八 その四方に、そのおのおのの翼の下に人の手があつた。この四つの者はみな顔と翼を持ち、翼は互に連なり、行く時は回らずに、おのおの顔の向かうところにまっすぐに進んだ。九 顔の形は、おのおのその前方に人の顔をもっていた。四つの者は右の方に、ししの顔をもち、四つの者は左の方に牛の顔をもち、また四つの者

は後の方に、わしの顔をもっていた。二 彼らの顔はこのようであつた。その翼は高く伸ばされ、その二つは互に連なり、他の二つをもつてからだをおおっていた。三 彼らはおのおのその顔の向かうところへまっすぐに行き、霊の行くところへ彼らも行き、その行く時は回らない。四 この生きもののうちには燃える炭の火のようなものがあり、たいまつのように、生きものの中を行き来している。火は輝いて、その火から、いならずまが出ている。五 生きものは、いならずまのひらめきのように速く行き来していた。

六 わたしが生きものを見ていると、生きもののかたわら、地の上に輪があつた。四つの生きもののおのにおの、一つずつの輪である。七 もろもろの輪の形と作りは、光る貴かんらん石のようである。四つのものは同じ形で、その作りは、あたかも、輪の中に輪があるようである。八 その行く時、彼らは四方のいずれかに行き、行く時は回らない。九 四つの輪には輪縁と輻とがあり、その輪縁の周囲は目をもって満たされていた。一〇 生きものが行く時には、輪もそのかたわらに行き、生きもののが地からあがる時は、輪もあがる。一一 霊の行く所には彼らも行き、輪は彼らに伴つてあがる。一二 生きものの霊が輪の中にあるからである。三 彼らが行く時は、これらも行き、彼らにとどまる時は、これらもとどまり、彼らが地からあがる時は、輪もまたこれらと共にあがる。生きものの霊が輪

の中にあるからである。

三 生きものの頭の上に水晶のように輝く大空の形があつて、彼らの頭の上に広がっている。四 大空の下にはまっすぐに伸ばした翼があり、たがいに相連なり、生きものはおのおの二つの翼をもつて、からだをおおっている。五 その行く時、わたしは大水の聲、全能者の声のような翼の声を聞いた。その声の響きは大軍の声のようである。六 そのとどまる時は翼をたれる。七 また彼らの頭の上の大空から声があつた。彼らが立ちとどまる時は翼をおろした。

二六 彼らの頭の上の大空の上に、サファイヤのような位の形があつた。またその位の形のの上に、人の姿のような形があつた。二七 そしてその腰とみえる所の上の方に、火の形のような光る青銅の色のものが、これを囲んでゐるのを見た。わたしはその腰とみえる所の下の方に、火のようなものを見た。そして彼のまわりに輝きがあつた。二八 そのまわりにある輝きのさまは、雨の日に雲に起るにじのようであつた。

主の栄光の形のさまは、このようであつた。わたしはこれを見て、わたしの顔をふせたとき、語る者の声を聞いた。

## 第二章

「彼はわたしに言われた、『人の子よ、立ちあがれ、わたしはあなたに語ろう』。二 そして彼がわたしに語られた時、霊がわたしのうちに入り、わたしを

立ちあがらせた。そして彼のわたしに語られるのを聞いた。三 彼はわたしに言われた、『人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの民、すなわちわたしにそむいた反逆の民につかわす。彼らもその先祖も、わたしにそむいて今日に及んでいる。四 彼らは厚顔で強情な者たちである。わたしはあなたを彼らにつかわす。あなたは彼らに『主なる神はこう言われる』と言いなさい。五 彼らは聞いても、拒んでも、(彼らは反逆の家だから) 彼らの中に預言者がいたことを知るだろう。六 人の子よ、彼らを恐れてはならない。彼らの言葉をも恐れてはならない。たとひあざみといばらがあなたと一緒にあつても、またあなたが、さそりの中に住んでも、彼らの言葉を恐れてはならない。彼らの顔をはばかつてはならない。彼らは反逆の家である。七 彼らが聞いても、拒んでも、あなたはただわたしの言葉を彼らに語らなければならない。彼らは反逆の家だから。

八 人の子よ、わたしがあなたに語るところを聞きなさい。反逆の家のようにそむいてはならない。あなたの口を開いて、わたしが与えるものを食べなさい。九 この時わたしが見ると、見よ、わたしの方に伸べた手があつた。また見よ、手の中に巻物があつた。一〇 彼がわたしの前にこれを開くと、その表にも裏にも文字が書いてあつた。その書かれてゐることは悲しみと、嘆きと、災の言葉であつた。

## 第三章

「彼はわたしに言われた、「人の子よ、あなたに与えられたものを食べなさい。この巻物を食べ、行ってイスラエルの家に語りなさい。」そこでわたしが口を開くと、彼はわたしにその巻物を食べさせた。そして彼はわたしに言われた、「人の子よ、わたしがあなたに与えるこの巻物を食べ、これであなたの腹を満たしなさい。」わたしがそれを食べると、それはわたしの口に甘いこと蜜のようであった。」

彼はまたわたしに言われた、「人の子よ、イスラエルの家に行つて、わたしの言葉を語りなさい。わたしはあなたを、異国語を用い、舌の重い民につかわすのでなく、イスラエルの家につかわすのである。大すなわちあなたがその言葉を知らない、異国語の舌の重い多くの民につかわすのではない。もしわたしがあなたをそのような民につかわしたら、彼らはあなたに聞いたであろう。しかしイスラエルの家はあなたに聞くのを好まない。彼らはわたしに聞くのを好まないからである。イスラエルの家はすべて厚顔でまた強情である。見よ、わたしはあなたの顔を彼らの顔に向かって堅くし、あなたの額を彼らの額に向かって堅くした。わたしはあなたの額を岩よりも堅いダイヤモンドのようにした。ゆえに彼らを恐れてはならない。彼らの顔をはばかつてはならない。彼らは反逆の家である。」また彼はわたしに言われた、「人の子よ、わたしがあなたに語るすべての言葉を

あなたの心におさめ、あなたの耳に聞きなさい。そして捕囚の人々、あなたの民の人々の所へ行つて、彼らが聞いても、彼らが拒んでも、『主なる神はこう言われる』と彼らに言いなさい。」

三時に霊がわたしをもたげた。そして主の栄光がその所からのぼった時、わたしの後に大いなる地震の響きを聞いた。それは互に相触れる生きものの翼の音と、そのかたわらの輪の音で、大いなる地震のように響いた。二霊はわたしをもたげ、わたしを取り去ったので、わたしは心を熱くし、苦々しい思いで出て行つた。主の手が強くわたしの上にあつた。五そしてわたしはケバル川のほとりのテルアビブにいる捕囚の人々のもとへ行き、七日の間、驚きあきれて彼らの中に座した。

二十七日過ぎて後、主の言葉がわたしに臨んだ、「人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家のために見守る者とした。あなたはわたしの口から言葉を聞くたびに、わたしに代つて彼らを戒めなさい。わたしは悪人に『あなたは必ず死ぬ』と言うとき、あなたは彼の命を救うために彼を戒めず、また悪人を戒めて、その悪い道から離れるように語らないなら、その悪人は自分の悪のために死ぬ。しかしその血をわたしはあなたの手から求める。しかし、もしあなたが悪人を戒めても、彼がその悪をも、またその悪い道をも離れないなら、彼はその悪のために死ぬ。しかしあなたは自分の命を救う。また



義人がその義にそむき、不義を行なうなら、わたしは彼の前に、つまずきを置き、彼は死ぬ。あなたが彼を戒めなかつたゆえ、彼はその罪のために死に、その行った義は覚えられない。しかしその血をわたしはあなたの手から求める。三けれども、もしあなたが義人を戒めて、罪を犯さないように語り、そして彼が罪を犯さないなら、彼は戒めを受け入れたゆえに、その命を保ち、あなたは自分の命を救う。

三その所で主の手がわたしのの上に臨み、彼はわたしに言われた、「立って、平野に出て行きなさい。その所でわたしはあなたに語ろう。」三そこで、わたしは立って平野に出て行った。見よ、主の栄光が、かつてわたしがケバル川のほとりで見た栄光のように、その所に立ち現れたので、わたしはひれ伏した。四しかし霊がわたしのうちにはいつて、わたしを立ちあがらせ、わたしに語って言った、「行って、あなたの家にこもっていなさい。五人の子よ、見よ、彼らはあなたの上になわをかけ、それであなたを縛り、あなたを民の中に行かせないようにする。六わたしはあなたの舌を上あごにつかせ、あなたをおしにして、彼らを戒めることができないようにする。彼らは反逆の家だからである。七しかし、わたしがあなたと語るときは、あなたの口を開く。あなたは彼らに『主なる神はこう言われる』と言わなければならない。聞く者は聞くがよい、拒む者は拒むがよい。彼らは反逆の家だ

からである。

#### 第四章

一人の子よ、一枚のかわらを取って、あなたの前に置き、その上にエルサレムの町を描きなさい。二そしてこれを取り囲み、これにむかつて雲梯を設け、塁を築き、陣を張り、その回りに城くずしを備えてこれを攻めなさい。三また鉄の板をとり、それをあなたと町の間に置いて鉄の壁となし、あなたの顔をこれに向けなさい。町をこのように囲んで、その包囲を押し進めなさい。これがイスラエルの家のしるしである。

四あなたはまた自分の左脇を下にして寝なさい。わたしはあなたの上にイスラエルの家の罰を置く。あなたはこのようなして寝ている日の間、彼らの罰を負わなければならない。五わたしは彼らの罰の年数に等しいその日数、すなわち三百九十日をあなたのために定める。その間あなたはイスラエルの家の罰を負わなければならない。六あなたはその期間を終ったなら、また右脇を下にして寝て、ユダの家の罰を負わなければならない。わたしは一日を一年として四十日をあなたのために定める。七あなたは自分の顔をエルサレムの包囲の方に向け、腕をあらわし、町に向かって預言しなければならぬ。八見よ、わたしはあなたに、なわをかけて、あなたの包囲の期間の終るまで、左右に動くことができないようにする。

九あなたはまた小麦、大麦、豆、レンズ豆、あわ、は



だか麦を取って、一つの器に入れ、これでパンを造り、あなたが横になって寝る日の数、すなわち三百九十日の間これを食べなければならぬ。二あなたが食べる食物は量って一日に二十シケルである。あなたは一日に一度これを食べなければならぬ。三また水を量って一ヒンの六分の一を一日に一度飲まなければならぬ。四あなたは大麦の菓子のようにしてこれを食べなさい。すなわち彼らの目の前でこれを人の糞で焼かなければならぬ。五そして主は言われた、「このようにイスラエルの民はわたしを追いやろうとする国々の中で汚れたパンを食べなければならぬ。六そこでわたしは言った、「ああ、主なる神よ、わたしは自分を汚したことはありません。七わたしは幼い時から今日まで、自然に死んだものや、野獣に裂き殺されたものを食べたことはありません。また汚れた肉がわたしの口にはいったことはありません。八すると彼はわたしに言われた、「見よ、わたしは牛の糞をもつて人の糞に換えることをあなたにゆるす。あなたはそれで自分のパンを整えなさい。九またわたしに言われた、「人の子よ、見よ、わたしはエルサレムで人のつえとするパンを打ち砕く。彼らはパンを量って、恐れながら食べ、また水を量って驚きながら飲む。一〇これは彼らをパンと水とに乏しくし、互に驚いて顔を見合わせ、その罰のために衰えさせるためである。」

第五章 一人の子よ、鋭いつるぎを取り、それ

を理髪師のかみそりとして、あなたの頭と、ひげとをそり、はかりで量って、その毛を分けなさい。二その三分の一は包圍の期間の終る時、町の中で火で焼き、また三分の一を取り、つるぎで町のまわりでこれを打ち、さらに三分の一を風に散らさなさい。わたしはつるぎを抜いて、彼らのあとを追う。三あなたはその毛を少し取って、衣のすそに包み、四またそのうちから少しを取って火の中に投げ入れ、火でこれを焼きなさい。火はその中から出て、イスラエルの全家に及ぶ。五主なる神はこう言われる、わたしはこのエルサレムを万国の中に置き、国々をそのまわりに置いた。六エルサレムは他の国々よりも悪しく、わたしのおきてにそむき、そのまわりの国々よりもわたしのおきてにそむいた。すなわち彼らはわたしのおきてを捨て、わたしのおきてに歩まなかった。七それゆえ主はこう言われる、あなたがたはそのまわりにいる異邦人よりも狂暴であって、わたしの定めに進まず、わたしのおきてを行わず、むしろ、あなたがたの回りにいる異邦人のおきてを守っていた。八それゆえ主なる神はこう言われる、見よ、わたしはあなたを攻め、異邦人の目の前で、あなたの中にさばきを行う。九あなたのもろもろの憎むべき事のために、わたしがまだした事のないうな事、またこの後ふたたびしないような事をあなたに對してする。一〇それゆえ、あなたのうちで父はその子を食べ、子はその父を食う。わたしはあなたに對してさば

きを行い、あなたのうちの残りの者をことごとく四方の風に散らす。二それゆえ、主なる神は言われる、わたしは生きてゐる。あなたは其の忌むべき物と、その憎むべき事をもつて、わたしの聖所を汚したので、わたしは必ずあなたの数を減らす。わたしの目はあなたを惜しみ見ず、またわたしはあなたをあわれまない。三あなたの三分の一はあなたの中で疫病で死に、ききんで滅び、三分の一はあなたのもわりでつるぎに倒れ、三分の一は四方の風に散らされる。わたしはつるぎを抜いてそのあとを追う。

三こうしてわたしは怒りを漏らし尽し、憤りを彼らの上に漏らして、満足する。こうして、わたしの憤りを彼らの上に漏らし尽した時、彼らは主であるわたしが熱心に語ったことを知るであらう。四わたしはまわりにある国々の中と、すべてそぼを通る者の目の前であなたを滅亡とあざけりに渡す。五わたしが怒りと、憤りと、重い懲罰をもつて、あなたに対してさばきを行う時、あなたはそのまわりにある国々のあざけりとなり、そしりとなり、戒めとなり、驚きとなる。これは主であるわたしが語るのである。六すなわち、わたしはあなたを滅ぼすききんの矢、滅亡の矢をあなたに放つ時、わたしはあなたを滅ぼすために放つのだ。わたしはあなたの上にききんを増し加え、あなたがつえとするパンを打ち砕く。七わたしはあなたにききんと野獣を送つて、あなたの子を奪

い取り、また疫病と流血にあなたの中を通らせ、またつるぎをあなたに送る。主であるわたしがこれを言う。

## 第六章 主の言葉が、わたしに臨んで言った、

三人の子よ、あなたの顔をイスラエルの山々に向け、預言して、三言え。イスラエルの山々よ、主なる神の言葉を聞け。主なる神は山と丘と、谷と川に向かつて、こう言われる、見よ、わたしはつるぎをあなたに送り、あなたがたの高き所を滅ぼす。四あなたがたの祭壇は荒され、あなたがたの香の祭壇はこわされる。わたしはあなたがたの偶像の前に、あなたがたの殺された者を投げ出す。五わたしはイスラエルの民の死体を彼らの偶像の前に置き、骨をあなたがたの祭壇のまわりに散らす。六すべてあなたがたの住む所で町々は滅ぼされ、高き所は荒される。こうしてあなたがたの祭壇はこわし荒され、あなたがたの偶像は砕かれて滅び、あなたがたの香の祭壇は倒され、あなたがたのわざは消し去られる。七また殺された者はあなたがたのうちに倒れる。これによつて、あなたがたはわたしに主であることを知るようになる。八わたしは、あなたがたのある者を生かしておく。あなたがたが、つるぎをのがれて国々の中におり、国々に散らされる時、九あなたがたのうちののがれた者は、その捕え移された国々の中でわたしを思い出す。これはわたしに、彼らのわたしを離れた姦淫の心と、偶像を慕つて姦淫を行う目をくじくからである。そして彼らはその

もろもろの憎むべきことと、その犯した悪のために、みずからをいとうようになる。二そして彼らはわたしの主であることを知る。この災を彼らに對して下すと、わたしが言ったのは決してむなし事ではない。

三主なる神はこう言われる、「あなたは手を打ち、足を踏みならして言え。ああ、イスラエルの家のすべての悪しき憎むべき者はわざわいだ。彼らはつるぎと、ききんと、疫病に倒れるからである。四遠くにいる者は疫病で死に、近くにいる者はつるぎに倒れる。生き残つて身を全うする者はききんによつて死ぬ。このようにわたしはわが憤りを彼らの上に漏らし尽す。五彼らの殺される者がその偶像の中にあり、その祭壇のまわりにあり、すべての高き丘の上にあり、すべての山の頂にあり、すべての青木の下にあり、すべての茂つたかしの木の下にあり、彼らがこうばしいかおりを、すべての偶像にささげた所にある時、あなたがたはわたしの主であることを知るのである。六わたしはまた手を彼らの上に伸べて、その地を荒し、すべて彼らの住む所を、荒野からリブラまで荒れ地とする。これによつて彼らはわたしの主であることを知るようになる」。

## 第七章 主の言葉がまたわたしに臨んだ、

三人の子よ、イスラエルの地の終りについて主はこう言われる、この国の四方の境に終りが来た。三いま、あなたの終りが来た。わたしはわが怒りをあなたに漏らし、

あなたの行いに従つて、あなたをさばき、あなたのもろもろの憎むべき物のためにあなたを罰する。四わたしの目はあなたを惜しみ見ず、またあなたをあわれまない。わたしはあなたの行いのためにあなたを罰する。あなたの憎むべき事があなたのうちにある。これによつて、あなたがたはわたしの主であることを知るようになる。

五主なる神はこう言われる、災が引き続いて起る。見よ、災が来る。六終りが来る。その終りが来る。それが起つて、あなたに臨む。見よ、それが来る。七この地に住む者よ、あなたの最後の運命があなたに来た。時は来た。日が近づいた。混乱の日で、山々に聞える喜びの日ではない。八今わたしは、すみやかにわたしの憤りをあなたの上に注ぎ、わたしの怒りをあなたに漏らし尽し、あなたの行いに従つてあなたをさばき、あなたのもろもろの憎むべき事のためにあなたを罰する。九わたしの目はあなたを惜しみ見ず、またあなたをあわれまない。わたしはあなたの行いのためにあなたを罰する。あなたの憎むべき事があなたのうちにある。これによつて、あなたがたは、主であるわたしがあなたを撃つことを知るようになる。

一〇見よ、その日を。また見よ、かの日が来た。あなたの最後の運命が来た。不義は花咲き、高ぶりは芽を出した。二暴虐はつゝつて悪のつえとなつた。彼らもその群衆も、その富も消え、また彼らの名声も消えて何も残ら



なくなる。三時は来た。日は近づいた。買う者は喜ぶな。売る者は悲しむな。怒りがすべての群衆の上に臨むからだ。二三売る者はたとい生きていても、その売ったものに帰ることはない。怒りがそのすべての民衆の上にあるからだ。それはもとに帰らない。その不義のために、だれも命を全うすることはできない。

一四人々がラッパを吹いて備えをしても戦いに出る者はない。それはわたしの怒りがそのすべての群衆の上にあるからだ。一五外にはつるぎがあり、内には疫病とききんがある。畑にいる者はつるぎに死に、町にいる者はききんと疫病に滅ぼされる。一六そのうちの、のがれる者は谷間のはどのように山々に行つて、おのおの皆その罪のために悲しむ。一七両手とも弱くなり、両ひざとも水のように弱くなる。一八彼らは荒布を身にまとい、恐れが彼らをおおい、すべての顔には恥があらわれ、すべての頭は髪をそり落す。一九彼らはその銀をちまたに捨て、その金はあくたのようになる。主の怒りの日には金銀も彼らを救うことはできない。それらは彼らの飢えを満足させることができない、またその腹を満たすことができない。それは彼らの不義のつまずきであつたからだ。二〇彼らはその美しい飾り物を高ぶりのために用い、またこれをもつてその憎むべき偶像と忌むべき物を造つた。それゆえわたしはこれを彼らに対して汚れたものとする。三わたしはこれを外国人の手に渡して奪わせ、地の悪人に渡して

かすめさせる。彼らはこれを汚す。三わたしは彼らから顔をそむけて、彼らにわたしの聖所を汚させる。強盜がこれにはいつて汚し、三また荒地とする。

この地は流血のどがに満ち、この町は暴虐に満ちてゐるゆえ、二四わたしは国々のうちの悪い者どもを招いて、彼らの家をかすめさせる。わたしは強い者の高ぶりをやめさせる。また彼らの聖所は汚される。二五滅びが来るとき、彼らは平安を求めても得られない。二六災に災が重なりきたり、知らせに知らせが相つぐ。その時、彼らは預言者に幻を求める。しかし律法は祭司のうちに絶え、計りごととは長老のうちに絶える。二七王は悲しみ、つかさは望みを失い、その地の民の手はおののきによつてこわばる。わたしは彼らの行いに従つて彼らをあつかひ、そのさばきに従つて彼らをさばく。そして彼らはわたしが主であることを知るようになる。

第八章 一第六年の六月五日にわたしがわたしの家に座し、ユダの長老たちがわたしの前に座していたとき、主なる神の手がわたしの上に下つた。二わたしは見ていると、見よ、人のような形があつて、その腰とみられる所から下は火のように見え、腰から上は光る青銅のように輝いて見えた。三彼は手のようなものを伸べて、わたしの髪の毛をつかんだ。そして霊がわたしを天と地の間に引きあげ、神の幻のうちにわたしをエルサレムに携えて行き、北に向かった内庭の門の入口に至らせた。

そこには、ねたみをひき起すねたみの偶像があった。  
四見よ、そこに、わたしがかの平野で見た幻のようなイスラエルの神の栄光があらわれた。

五時に彼はわたしに言われた、「人の子よ、目をあげて北の方をのぞめ」。そこでわたしが目をあげて北の方をのぞむと、見よ、祭壇の門の北にあたって、その入口に、このねたみの偶像があった。彼はまたわたしに言われた、「人の子よ、あなたは彼らのしていること、すなわちイスラエルの家がこゝでしている大いなる憎むべきことを見るか。これはわたしを聖所から遠ざけるものである。しかしあなたは、さらに大いなる憎むべきことを見るだろう」。

七そして彼はわたしを庭の門に行かせた。わたしが見ると、見よ、壁に一つの穴があった。八彼はわたしに言われた、「人の子よ、壁に穴をあけよ」。そこでわたしが壁に穴をあけると、見よ、一つの戸があった。九彼はわたしに言われた、「はいって、彼らがこゝでなす所の悪しき憎むべきことを見よ」。一〇そこでわたしはいって見ると、もろもろの這うものと、憎むべき獣の形、およびイスラエルの家のもろもろの偶像が、まわりの壁に描いてあった。二またイスラエルの家の長老七十人が、その前に立っていた。シヤパンの子ヤザニヤも、彼らの中に立っていた。おのおの手に香炉を持ち、そしてその香の煙が雲のようにのぼった。三時に彼はわたしに言われ

た、「人の子よ、イスラエルの家の長老たちが暗い所で行う事、すなわちおのおのその偶像の室で行う事を見るか。彼らは言う、『主はわれわれを見られない。主はこの地を捨てられた』と」。三またわたしに言われた、「あなたはさらに彼らがなす大いなる憎むべきことを見る」。四そして彼はわたしを連れて主の家の北の門の入口に行つた。見よ、そこに女たちがすわって、タンムズのために泣いていた。五その時、彼はわたしに言われた、「人の子よ、あなたはこれを見たか。これよりもさらに大いなる憎むべきことを見るだろう」。

六彼はまたわたしを連れて、主の家の内庭にはいった。見よ、主の宮の入口に、廊と祭壇との間に二十五人ばかりの人が、主の宮にその背中を向け、顔を東に向け、東に向かつて太陽を拜んでいた。七時に彼はわたしに言われた、「人の子よ、あなたはこれを見たか。ユダの家にとつて、彼らがこゝでしているこれらの憎むべきわざは軽いことであるか。彼らはこの地を暴虐で満たし、さらにわたしを怒らせる。見よ、彼らはその鼻に木の枝を置く。八それゆえ、わたしも憤って事を行う。わたしの目は彼らを惜しみ見ず、またあわれまない。たとい彼らがわたしの耳に大声で呼ばわっても、わたしは彼らの言うことを聞かない」。

第九章 一時に彼はわたしに耳に大声に呼ばわつて言われた、「町を罰する者たちよ、おのおの滅ぼ

す武器をその手に持つて近よれ」と。二見よ、北に向かう上の門の道から出て来る六人の者があつた。おのおのその手に滅ぼす武器を持ち、彼らの中のひとりは亜麻布を着、その腰に物を書く墨つばをつけていた。彼らははいつて来て、青銅の祭壇のかたわらに立った。

三ここにイスラエルの神の栄光がその座しているケルビムから立ちあがつて、宮の敷居にまで至つた。そして主は、亜麻布を着て、その腰に物を書く墨つばをつけている者呼び、彼に言われた、「町の中、エルサレムの中をめぐり、その中で行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ人々の額にしるしをつけよ」。五またわたしの聞いてゐる所で他の者に言われた、「彼のあとに従ひ町をめぐつて、撃て。あなたの目は惜しみ見るな。またあわれむな。六老若男女をことごとく殺せ。しかし身にしるしのある者には触れるな。まずわたしの聖所から始めよ」。そこで、彼らは宮の前にいた老人から始めた。七この時、主は彼らに言われた、「宮を汚し、死人で庭を満たせ。行け」。そこで彼らは出て行って、町の中で撃つた。八さて彼らが人々を打ち殺してゐた時、わたしひとりだけが残されたので、ひれ伏して、叫んで言つた、「ああ主なる神よ、あなたがエルサレムの上に怒りを注がれるとき、イスラエルの残りの者を、ことごとく滅ぼされるのですか」。

主はわたしに言われた、「イスラエルとエダの家の罪

は非常に大きい。国は血で満ち、町は不義で満ちてゐる。彼らは言う、『主はこの地を捨てられた。主は顧みられない』。九それゆゑ、わたしの目は彼らを惜しみ見ず、またあわれまない。彼らの行くところを、彼らのこうべに報いる」。

二時に、かの亜麻布を着、物を書く墨つばを腰につけていた人が報告して言つた、「わたしはあなたがお命じになつたように行いました」。

第一〇章 一時にわたしは見ていたが、見よ、ケルビムの頭の上の天空に、サファイヤのようなものが王座の形をして、その上に現れた。二彼は亜麻布を着たその人に言われた、「ケルビムの下の回る車の間にはいり、ケルビムの間から炭火をとつてあなたの手に満たし、これを町中にまき散らせ」。

そして彼はわたしの目の前ではいった。三この人がはいつた時、ケルビムは宮の南側に立つてゐた。また雲はその内庭を満たしてゐた。四主の栄光はケルビムの上から宮の敷居の上にあがり、宮は雲で満ち、庭は主の栄光の輝きで満たされた。五時にケルビムの翼の音が全能の神が語られる声のように外庭にまで聞えた。

六彼は亜麻布を着てゐる人に、「回る車の間、ケルビムの間から火を取れ」と命じた時、その人ははいつて、輪のかたわらに立った。七ひとりのケルビムはその手をケルビムの間から伸べて、ケルビムの間にある火を取り、亜



麻布を着た人の手に置いた。すると彼はこれを取って出て行った。ハケルビムはその翼の下に人の手のような形のものを持ってゐるように見えた。

九 わたしが見ていると、見よ、ケルビムのかたわらに四つの輪があり、一つの輪はひとりのケルブのかたわらに、他の輪は他のケルブのかたわらにあった。輪のさまは、光る貴かんらん石のようであつた。一〇そのさまは四つとも同じ形で、あたかも輪の中に輪があるようであつた。二 その行く時は四方のどこへでも行く。その行く時は回らない。ただ先頭の輪の向くところに従い、その行く時は回することをしない。三 その輪縁、その輻、および輪には、まわりに目が満ちてゐた。一 その輪は四つともこれを持ってゐた。二 その輪はわたしの聞いてゐる所で、「回る輪」と呼ばれた。三 そのおのおのには四つの顔があつた。第一の顔はケルブの顔、第二の顔は人の顔、第三はししの顔、第四はわしの顔であつた。

二五 その時ケルビムはのぼつた。これがケバル川でわたしが見た生きものである。二六 ケルビムの行く時、輪もそののかたわらに行き、ケルビムが翼をあげて地から飛びあがる時は、輪もそののかたわらを離れない。二七 その立ちどまる時は、輪も立ちどまり、そののぼる時は、輪も共にのぼる。生きものの霊がその中にあるからである。

二八 時に主の栄光が宮の敷居から出て行って、ケルビムの上に立つた。二九 するとケルビムは翼をあげて、わたし

の目の前で、地からのぼつた。その出て行く時、輪もまたこれと共にあり、主の宮の東の門の入口の所へ行って止まつた。イスラエルの神の栄光がその上にあつた。

三〇 これがすなわちわたしがケバル川のほとりで、イスラエルの神の下に見たかの生きものである。わたしはそれがケルビムであることを知つてゐた。三 これにはおのおの四つの顔があり、おのおの四つの翼があり、また人の手のようなものがその翼の下にあつた。三 その顔の形は、ケバル川のほとりでわたしが見たそのまゝの顔である。おのおのその前の方にまっすぐに行つた。

第一 一章 一 時に霊はわたしをあげて、東に向かう主の宮の東の門に連れて行つた。見よ、その門の入口に二十五人の者がいた。わたしはその中にアズルの子ヤザニヤと、ベナヤの子ペラテヤを見た。共に民のつかさであつた。二 すると彼はわたしに言われた、「人の子よ、これらの者はこの町の中で悪い事を考え、悪い計りごとをめぐらす人々である。三 彼らは言う、『家を建てる時は近くはない。この町はなべであり、われわれは肉である』と。四 それゆえ、彼らに向かつて預言せよ。人の子よ、預言せよ。」

五 時に、主の霊がわたしに下つて、わたしに言われた、「主はこう言われると言え、イスラエルの家よ、考えてみよ。わたしはあなたがたの心にある事どもを知つてゐる。六 あなたがたはこの町に殺される者を増し、殺され

た者をもつてちまたを満たした。七それゆえ、主なる神はこう言われる、町の中にあなたがたが置く殺された者は肉である。この町はなべである。しかし、あなたがたはその中から取り出される。八あなたがたはつるぎを恐れた。わたしはあなたがたにつるぎを臨ませると、主は言われる。九またわたしはあなたがたをその中から引き出して、他国人の手に渡し、あなたがたをさばく。一〇あなたがたはつるぎに倒れる。わたしはあなたがたをイスラエルの境でさばく。これによってあなたがたはわたしの主であることを知るようになる。二この町はあなたがたに對してなべとはならず、あなたがたはその肉とはならない。わたしはイスラエルの境でああなたがたをさばく。三これによって、あなたがたはわたしの主であることを知るようになる。あなたがたはわたしの定めに歩まず、またわたしのおきてを行わず、かえってその周囲の他国人のおきてに従って行っているからである」。

二三このようにわたしは預言していた時、ベナヤの子ペラテヤが死んだので、わたしは打ち伏して、大声で叫んで言った、「ああ主なる神よ、あなたはイスラエルの残りの者をことごとく滅ぼそうとされるのですか」。

二四時に主の言葉がわたしに臨んで言った、「五人の子よ、あなたの兄弟、あなたの友、あなたの兄弟である捕われ人、イスラエルの全家、エルサレムの住民は言った、『彼らは主から遠く離れた。この地はわれわれの所有と

して与えられているのだ』と。一六それゆえ、言え、『主なる神はこう言われる、たといわたしは彼らを遠く他国人の中に移し、国々の中に散らしても、彼らの行った国で、わたしはしばらく彼らのために聖所となる』と。

一七それゆえ、言え、『主はこう言われる、わたしはあなたがたをもろもろの民の中から集め、その散らされた国々から集めて、イスラエルの地をあなたがたに与える』と。

一八彼らはその所に來る時、そのもろもろのいとうべきものと、もろもろの憎むべきものとをその所から取り除く。一九そしてわたしは彼らに一つの心を与え、彼らのうちに新しい靈を授け、彼らの肉から石の心を取り去って、肉の心を与える。二〇これは彼らがわたしの定めに歩み、わたしのおきてを守って行い、そして彼らがわたしの民となり、わたしが彼らの神となるためである。二一しかしいとうべきもの、憎むべきものをその心に慕って歩む者には、彼らの行いに従ってそのこうべに報いると、主なる神は言われる」。

二三時にケルビムはその翼をあげた。輪がそのかたわらにあり、イスラエルの神の榮光がその上にあった。二三主の榮光が町の中からのぼって、町の東にある山の上に立ちどまつた。二四その時、靈はわたしをあげ、神の靈によつて、幻のうちにわたしをカルデヤの捕われ人の所へ携えて行った。そしてわたしが見た幻はわたしを離れてのぼった。二五そこでわたしは主がわたしに示された事を

ことごとくかの捕われ人に告げた。

## 第一二章

一 主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、あなたは反逆の家の中にいる。彼らは見る目があるが見ず、聞く耳があるが聞かず、彼らは反逆の家である。三 それゆえ、人の子よ、捕囚の荷物を整え、彼らの目の前で昼のうちに移れ、彼らの目の前であなたの所から他の所に移れ。彼らは反逆の家であるが、あるいは彼らは顧みるところがあるう。四 あなたは、捕囚の荷物のようなあなたの荷物を、彼らの目の前で昼のうちに持ち出せ。そして捕囚に行くべき人々のように、彼らの目の前で夕べのうちに出て行け。五 すなわち彼らの目の前で壁に穴をあけ、そこから出て行け。六 あなたは彼らの目の前でその荷物を肩に負い、やみのうちにそれを運び出せ。あなたの顔をおおって地を見るな。わたしはあなたをしるしとなして、イスラエルの家に示すのだ。七 そこでわたしは命じられたようにし、捕囚の荷物のような荷物を昼のうちに持ち出し、夕べにはわたしの手で壁に穴をあけ、やみのうちに彼らの目の前で、これを肩に負って運び出した。

八 次の朝、主の言葉がわたしに臨んだ、九 人の子よ、反逆の家であるイスラエルの家は、あなたに向かつて、『何をしているのか』と言わなかったか。一〇 あなたは彼らに言いなさい、『主なる神はこう言われる、この託宣はエルサレムの君、およびその中にあるイスラエルの全家にか

かわるものである』と。二 また言いなさい、『わたしはあなたにたのしむのである。わたしがしたとおりに彼らもされる。彼らはとりこにされて移される』と。三 彼らのうちの君は、やみのうちにその荷物を肩に載せて出て行く。彼は壁に穴をあけて、そこから出て行く。彼は顔をおおって、自分の目での地を見ない。四 わたしはわたしの網を彼の上に打ちかける。彼はわたしのわなにかかる。わたしは彼をカルデヤびとの地のバビロンに引いて行く。しかし彼はそれを見ないで、そこで死ぬであらう。五 またすべて彼の周囲について彼を助ける者および彼の軍隊を、わたしは四方に散らし、つるぎを抜いてそのあとを追う。六 わたしが彼らを諸国民の中に散らし、国々にまき散らすとき、彼らはわたしが主であることを知る。七 ただし、わたしは彼らのうちに、わずかの者を残して、つるぎと、ききんと、疫病を免れさせ、彼らがおこなったものもろもの憎むべきことを、彼らが行く国びとの中に告白させよう。そして彼らはわたしが主であることを知るようになる。

八 主の言葉がまたわたしに臨んだ、九 人の子よ、震えてあなたのパンを食べ、おのきと恐れとをもって水を飲め。一〇 そしてこの地の民について言え、主なる神はイスラエルの地のエルサレムの民についてこう言われる、彼らは恐れをもってそのパンを食べ、驚きをもってその水を飲むようになる。これはその地が、すべてその



中に住む者の暴虐のために衰え、荒れ地となるからである。二〇人の住んでいた町々は荒れはて、地は荒塚となる。そしてあなたがたは、わたしが主であることを知るようになる」。

三主の言葉がわたしに臨んだ、三一人の子よ、イスラエルの地について、あなたがたが『日は延び、すべての幻はむなしくなった』という、このことわざはなんであるか。三それゆえ、彼らに言え、『主なる神はこう言われる、わたしはこのことわざをやめさせ、彼らが再びイスラエルで、これをことわざとしないようにする』と。しかし、あなたは彼らに言え、『日とすべての幻の実現とは近づいた』と。四イスラエルの家のうちには、もはやむなしい幻も、偽りの占いもなくなる。五しかし主なるわたしは、わが語るべきことを語り、それは必ず成就する。決して延びることはない。ああ、反逆の家よ、あなたの日にわたしはこれを語り、これを成就すると、主なる神は言われる」。

六主の言葉がまたわたしに臨んだ、七一人の子よ、見よ、イスラエルの家は言う、『彼の見る幻は、なお多くの日の後の事である。彼が預言することは遠い後の時のことである』と。八それゆえ、彼らに言え、主なる神はこう言われる、わたしの言葉はもはや延びない。わたしの語る言葉は成就すると、主なる神は言われる」。

第一三章 主の言葉がわたしに臨んだ、三人の

子よ、イスラエルの預言者たちに向かつて預言せよ。すわなち自分の心のままに預言する人々に向かつて、預言して言え、『あなたがたは主の言葉を聞け』。三主なる神はこう言われる、なにも見ないで、自分の霊に従う愚かな預言者たちはわざわいだ。四イスラエルよ、あなたの預言者たちは、荒れ跡にいるきつねのようだ。五あなたがたは主の日に戦いに立つため、破れ口へのぼらず、またイスラエルの家のために石がきを築こうともしない。六彼らは虚偽を言い、偽りを占った。彼らは主が彼らをつかわさないのに『主が言われる』と言い、なおその言葉の成就することを期待する。七あなたがたはむなしい幻を見、偽りの占いを語り、わたしが言わないのに『主が言われる』と言ったではないか。

八それゆえ、主なる神はこう言われる、『あなたがたはむなしいことを語り、偽りの物を見るゆえ、わたしはあなたがたを罰すると主なる神は言われる。九わたしの手は、むなしい幻を見、偽りの占いを言う預言者に敵対する。彼らはわが民の会に臨まず、イスラエルの家の籍にされるされず、イスラエルの地に、はいることができない。そしてあなたがたはわたしに主なる神であることを知るようになる。一〇彼らはわが民を惑わし、平和がないのに『平和』と言い、また民が壩を築く時、これらの預言者たちは水しっくいをもってこれを塗る。二それゆえ、水しっくいを塗る者どもに『これはかならずくずれる』と

言え。これに大雨が注ぎ、ひょうが降り、あらしが吹く。  
二三そして塀がくずれる時、人々はあなたがたに向かつて、『あなたがたが塗った水しっくいはどこにあるか』と言わないうか。二三それゆえ、主なる神はこう言われる、わたしはわが憤りをもって大風を起し、わが怒りをもって大雨を注がせ、憤りをもってひょうを降らせて、これを滅ぼす。二四またわたしはあなたがたが水しっくいをもって塗った塀をこわして、これを地に倒し、その基をあらわす。これが倒れる時、あなたがたはその中に滅びる。そしてあなたがたは、わたしが主であることを知るようになる。二五こうしてわたしが、その塀と、これを水しっくいでも塗った者との上に、わたしの憤りを漏らし尽して、あなたがたに言う、塀はなくなり、これを塗った者もなくなる。二六これがすなわち平和がないのに平和の幻を見、エルサレムについて預言したイスラエルの預言者であると、主なる神は言われる。

二七人の子よ、心のままに預言するあなたの民の娘たちに対して、あなたの顔を向け、彼らに向かつて預言して、八言え、主なる神はこう言われる、手の節々に占いひもを縫いつけ、もろもろの大きさの人の頭に、かぶり物を作りかぶせて、魂をかり取るうとする女はわざわいだ。あなたがたは、わが民の魂をかり取って、あなたがたの利益のために、他の魂を生かしおこうとするのか。一九あなたがたは少しばかりの大麦のため、少しばかりのパン

のために、わが民のうちに、わたしを汚し、かの偽りを聞き入れるわが民に偽りを述べて、死んではならない者を死なせ、生きていてはならない者を生かす。

二〇それゆえ、主なる神はこう言われる、見よ、わたしはあなたがたが用いて、魂をかり取るところの占いひもを奪い、あなたがたの腕から占いひもを裂き取って、あなたがたがかり取るところの魂を、鳥のように放ちやる。三わたしはまたあなたがたの、かぶり物を裂き、わが民をあなたがたの手から救う。彼らは再びあなたがたの獲物とはならない。そしてあなたがたはわたしの主であることを知るようになる。三あなたがたは偽りをもって正しい者の心を悩ました。わたしはこれを悩まさなかつた。またあなたがたは悪人が、その命を救うために、その悪しき道から離れようとする時、それをしないように勧める。三三それゆえ、あなたがたは重ねてむなし幻を見る。三三それができず、占いをする。三三それができないようになる。わたしはわが民を、あなたがたの手から救い出す。そのとき、あなたがたはわたしが主であることを知るようになる。

#### 第一 四章

ここにイスラエルの長老のうちのあつた人々が、わたしの所に來て、わたしの前に座した。二時に主の言葉が、わたしに臨んだ、三「人の子よ、これらの人々は、その偶像を心の中に持ち、罪に落とし入れるところのつまずきを、その顔の前に置いてゐる。わたしはど

うして彼らの願いをいれることができようか。四 それゆえ彼らに告げて言え、主なる神は、こう言われる、イスラエルの家の人々で、その偶像を心の中に持ち、その顔の前に罪に落し入れるところのつまずくものを置きながら、預言者のもとに来る者には、その多くの偶像のゆえに、主なるわたしは、みずからこれに答をする。五 これはその偶像のために、すべてわたしを離れたイスラエルの家の心を、わたしが捕えるためである。

六 それゆえイスラエルの家に言え、主なる神はこう言われる、あなたがたは悔いて、あなたがたの偶像を捨てよ。あなたがたの顔を、そのすべての憎むべきものからそむけよ。七 イスラエルの家のおよびイスラエルに宿る外国人のだれでも、わたしから離れ、その心に偶像を持ち、その顔の前に罪に落し入れるところのつまずきを置きながら、預言者に来て、心のままにわたしに求めるときは、主であるわたしは、みずからこれに答をする。八 わたしはわたしの顔を、その人に向け、彼を、しるし、およびことわざとなし、これをわが民のうちから断ち滅ぼす。その時、あなたがたはわたしが主であることを知るようになる。九 もし預言者が欺かれて言葉を出すことがあれば、それは主であるわたしが、その預言者を欺いたのである。わたしは手を彼の上に伸べ、わが民イスラエルのうちから彼を滅ぼす。一〇 彼らはその罰を負う。その預言者の罰は、問い求める者の罰と同様である。二〇

これはイスラエルの家が、重ねてわたしを離れて迷わず、重ねてそのもろもろのところがによって、おのれを汚さないため、また彼らがわが民となり、わたしが彼らの神となるためであると、主なる神は言われる。二一 三主の言葉が、またわたしに臨んだ、二三 人の子よ、もし国がわたしに、もとりそむいて罪を犯し、わたしがその上に手を伸べて、そのつえとたのむパンを砕き、これにききんを送り、人と獣とをそのうちから断つ時、二四 といそこにノア、ダニエル、ヨブの三人がいても、彼らはその義によって、ただ自分の命を救いうるのみであると、主なる神は言われる。二五 もしわたしが野の獣にこの地を通らせ、これを荒させ、これを荒地となし、その獣のためにそこを通る者がないようにしたなら、二六 主なる神は言われる、わたしは生きてゐる、たといこれら三人の者がその中にいても、そのむすこ娘を救うことはできない。ただ自分自身を救いうるのみで、その地は荒地地となる。二七 あるいは、わたしがもし、つるぎをその地に臨ませ、つるぎよ、この地を行きめぐれと言って、人と獣とをそこから断つならば、二八 主なる神は言われる、わたしは生きてゐる、たといこれら三人の者がその中にいても、そのむすこ娘を救うことはできない。ただ自分自身を救いうるのみである。二九 あるいは、わたしがもし、この地に疫病を送り、血をもつてわが憤りをその上に注ぎ、人と獣とをそこから断つならば、三〇 主なる神は言わ



れる、わたしは生きてゐる、たといノア、ダニエル、ヨブがそこにいても、彼らはそのむすこ娘を救うことができない。ただその義によつて自分の命を救ひうるのみである。

三 主なる神はこう言われる、わたしが人と獣とを地から断つために、つるぎと、ききんと、悪しき獣と、疫病との四つのきびしい罰をエルサレムに送る時はどうであらうか。三 しかし、もしそれがあなたがたに来るとき、むすこ娘たちを助け出す者が、その中に残っていて、あなたがたがその行いと、わざとを見るならば、わたしがエルサレムの上に与えたすべての災について慰められるであらう。三 すなわち、あなたがたが、その行いと、わざとを見る時、彼らはあなたがたを慰め、あなたがたはわたしがこれに行った事は、すべてゆえなくしたのではないことを知るようになる、主なる神は言われる。

### 第一 五章

「主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、ぶどうの木、森の木のうちにあるぶどうの枝は、

ほかの木になんのまさる所があるか。三 その木は何かを造るために用いられるか。また人はこれを用いて、器物を掛ける木釘を造るだらうか。四 見よ、これは火に投げ入れられて燃える。火がその両端を焼いたとき、またその中ほどがこげたととき、それはなんの役に立つだらうか。五 見よ、これは完全な時でも、なんの用をもなさない。まして火がこれを焼き、これをこがした時には、なんの

役に立つだらうか。六 それゆえ主なる神はこう言われる、わたしが森の木のの中のおどろの木を、火に投げ入れて焼くように、エルサレムの住民をそのようにする。七 わたしはわたしの顔を彼らに向けて攻める。彼らがその火からのがれても、火は彼らを焼き尽す。わたしが顔を彼らに向けて攻める時、あなたがたはわたしの主であることを知る。八 彼らが、もとよりそむいたゆえに、わたしはこの地を荒地地とすると、主なる神は言われる。

### 第一 六章

「主の言葉が再びわたしに臨んだ、

三人の子よ、エルサレムにその憎むべき事どもを示して、三 言え。主なる神はエルサレムにこう言われる、あなたの起り、あなたの生れはカナンびとの地である。あなたの父はアモリびと、あなたの母はヘテびとである。四 あなたの生れについていえば、その生れた日に、へその緒は切られず、水で洗い清められず、塩でこすられず、また布で包まれなかった。五 ひとりもあなたをあわれみ見る者なく、情をもつてこれらのことの一つをも、あなたにしてやる者もなく、あなたの生れた日に、あなたはききられて、野原に捨てられた。

六 わたしはあなたのかたわらを通り、あなたが血の中にころがりまわっているのを見た時、わたしは血の中にいるあなたに言った、『生きよ、七 野の木のようになつて』と。すなわちあなたは成長して大きくなり、一人前の女になり、その乳ぶさは形が整い、髪は長くなったが、着

物がなく、裸であつた。

「わたしは再びあなたのかたわらをとおつて、あなたを見たが、見よ、あなたは愛せられる年齢に達していたので、わたしは着物のすそであなたをおおい、あなたの裸をかくし、そしてあなたに誓い、あなたと契約を結んだ。そしてあなたはわたしのものとなつたと、主なる神は言われる。九そこでわたしは水であなたを洗い、あなたの血を洗い落して油を塗り、一〇縫い取りした着物を着せ、皮のくつをはかせ、細布をかぶらせ、絹のきれであなたをおおつた。二また飾り物であなたを飾り、腕輪をあなたの手にはめ、鎖をあなたの首にかけ、三鼻には鼻輪、耳には耳輪、頭には美しい冠を与えた。三このようにあなたは金銀で飾られ、細布、絹、縫い取りの服をあなたの衣とし、麦粉と、蜜と、油とを食べた。あなたは非常に美しくなつて王の地位に進み、四あなたの美しさのために、あなたの名声は国々に広まつた。これはわたしが、あなたに施した飾りによって全うされたからである」と、主なる神は言われる。

二五ところが、あなたは自分の美しさをたのみ、自分の名声によって姦淫を行い、すべてかたわらを通る者と、ほしいままに姦淫を行った。二六あなたは自分の衣をとつて、自分のために、はなやかに色どつた聖所を造り、その上で姦淫を行っている。こんなことはかつてなかつたこと、またあつてはならないことである。二七あなたはわ

たしが与えた金銀の美しい飾りの品をとり、自分のために男の像を造つて、これと姦淫を行った。二八また縫い取りのある自分の衣をとつて彼らに着せ、わたしの油と香とをその前に供え、二九またわたしがあなたに与えたパン、わたしがあなたを養うための麦粉、油および蜜を、こうばしきかおりとして彼らの前に供えたと、主なる神は言われる。三〇あなたはまた、あなたがわたしに産んだむすこ、娘たちをとつて、その像に供え、彼らに食わせた。このようあなた姦淫は小さい事であろうか。三一人はわたしの子どもを殺し、火の中を通らせて彼らにささげた。三二あなたがそのすべての憎むべきことや姦淫を行ふに當つて、あなたが衣もなく、裸で、血の中に入りまわつていた自分の若き日のことを思ひなかつた。

三三あなたがもろもろの悪を行った後、(あなたはわざわいだ、わざわいだと、主なる神は言われる)三四あなたは自分のために高樓を建て、広場、広場に台を造り、三五また、ちまたのつじに台を造つて、あなたの美しさを汚し、すべてかたわらを通る者に身をまかせて、大いに姦淫を行っている。三六あなたはまた、かの肉欲的な隣人エジプトの人々と姦淫を行い、大いに姦淫を行つて、わたしを怒らせた。三七それゆゑ、わたしはわたしの手をあなたの上に伸べて、あなたの賜わる分を減らし、あなたの敵、すなわち、あなたのみだらな行為を恥じるペリシテびとの娘らの欲のままに、あなたを渡した。三八あなた

は飽くことがないので、またアッスリヤの人々と姦淫を行つたが、彼らと姦淫を行つても、なお飽くことがなかった。二九あなたはまたカルデヤの商業地と大いに姦淫を行つたが、これと姦淫を行つても、なお飽くことがなかった。

三〇主なる神は言われる、あなたの心はどんなに恋いわずらうのか。あなたは、これらすべての事を行つた。これはあつかましい姦淫のわざである。三一あなたは、ちまた、ちまたのつじに高樓を建て、広場、広場に台を設けたが、価をもらうことをあざけたので、遊女のようにはなかった。三二自分の夫に替えて他人と通じる姦婦よ。

三三人はすべての遊女に物を与える。しかしあなたはすべての恋人に物を与え、彼らにまいないして、あなたと姦淫するために、四方からあなたの所にこさせる。三四このようにあなたは姦淫を行うに當つて、他の女と違つてゐる。すなわち、だれもあなたに姦淫をさせたのではない。あなたはかえつて価を払い、相手はあなたに払わない。これがあなたの違つところである。

三五それで遊女よ、主の言葉を聞け。三六主なる神はこう言われる、あなたがその恋人と姦淫して、あなたの恥じる所をあらわし、あなたの裸をあらわし、またすべての偶像と、あなたが彼らにささげたあなたの子どものらの血のゆえに、三七見よ、わたしはあなたと遊んだあなたのすべての恋人、およびすべてあなたが恋した者と、すべて

あなたが憎んだ者とを集め、四方から彼らをあなたの所に集めて、あなたの裸を彼らにあらわす。彼らはあなたの裸を、ことごとく見る。三八わたしは姦淫を行つた女と、血を流した女がさばかれるように、あなたをさばき、憤りと、ねたみの血とを、あなたに注ぐ。三九わたしはあなたを恋人の手に渡す。彼らはあなたの高樓を倒し、台をこわし、あなたの衣をはぎ取り、あなたの美しい飾りの品を奪い、あなたを衣服のない裸者にする。四〇彼らは民衆をかり立ててあなたを攻め、石であなたを撃ち、つるぎであなたを切り、四一火であなたの家を焼き、多くの女たちの前で、あなたにさばきを行う。こうしてわたしはあなたに淫行をやめさせ、重ねて価を払わせないようにする。四二そしてあなたに対するわが憤りをしずめ、わがねたみをあなたから離し、わたしは心を安んじて、再び怒ることをしない。四三またあなたはその若き日の事を覚え、すべてこれらの事をもつて、わたしを怒らせたから、見よ、わたしもあなたの行つところをあなたのこうべに報いると、主なる神は言われる。

四四あなたはもろもろの憎むべき事に加えて、このみだらな事をおこなつたではないか。四五見よ、すべてことわざを用いる者は、あなたについて、『この母にしてこの娘あり』という、ことわざを用いる。四六あなたは、その夫と子どもとを捨てたあなたの母の娘、またその夫と子どもとを捨てた姉妹を持つてゐる。あなたの母はヘテびと、



あなたの父はアモリびと、<sup>四六</sup>あなたの姉はサマリヤ、サマリヤはその娘たちと共に、あなたの北に住み、あなたの妹はソドムで、その娘たちと共に、あなたの南に住んでいる。<sup>四七</sup>あなたは彼らの道を歩まず、彼らの憎むべき事に従っていないが、しばらくすると、あなたのおこなひは、彼らよりもさらに悪くなる。<sup>四八</sup>主なる神は言われる、わたしは生きてゐる、あなたの妹ソドムとその娘たちは、あなたとあなたの娘たちがしたほどのことはしなかつた。<sup>四九</sup>見よ、あなたの妹ソドムの罪はこれである。すなわち彼女と、その娘たちは高ぶり、食物に飽き、安泰に暮らしていたが、彼らは、乏しい者と貧しい者を助けなかつた。<sup>五〇</sup>彼らは高ぶり、わたしの前に憎むべき事をおこなつたので、わたしはそれを見た時、彼らを除いた。<sup>五一</sup>サマリヤはあなたの半分も罪を犯さなかつた。あなたは彼らよりも多く憎むべき事をおこない、あなたのおこなつたものもろの憎むべき事によって、あなたの姉妹を義と見せかけた。<sup>五二</sup>あなたはその姉妹を有利にさばいたことによつて、あなたもまた自分のはずかしめを負わなければならぬ。それはあなたが彼らよりも、さらに憎むべきことをした罪によつて、彼らはあなたよりも義とされるからである。それであなたも恥を受け、はずかしめを負わなければならぬ。それはあなたがその姉妹を義と見せかけたからである。

<sup>五三</sup>わたしは彼らの幸福をもとに返す。すなわちソドム

とその娘たちの幸福、サマリヤとその娘たちの幸福、また彼女らの中にゐるあなたの幸福をもとに返す。<sup>五四</sup>これはあなたに自分のはずかしめを負わせるため、またすべてあなたのなした事を恥じさせるためである。こうしてあなたは彼らの慰めとなる。<sup>五五</sup>あなたの姉妹ソドムと、その娘たちとは、そのもとの所に帰り、サマリヤと、その娘たちとは、そのもとの所に帰り、あなたと、あなたの娘たちとは、そのもとの所に帰る。<sup>五六</sup>あなたの高ぶりの日に、あなたの姉妹ソドムは、あなたの口に、ことわざとなつたではなかつたか。<sup>五七</sup>すなわちあなたの悪があらわされた時まで、そうではなかつたか。しかし今はあなたも彼女と同様に、エドムの娘たちと、すべてその周囲の者、および四方からあなたをあざけるペリシテの娘たちのそしりとなつた。<sup>五八</sup>あなたはあなたのみだらな行爲と、あなたの憎むべき事のどがとを、身に負つていと主は言われる。

<sup>五九</sup>主なる神はこう言われる、誓いを軽んじ、契約を破つたあなたには、あなたがしたように、わたしもあなたにする。<sup>六〇</sup>しかしわたしはあなたの若き日に、あなたと結んだ契約を覚え、永遠の契約をあなたと立てる。<sup>六一</sup>わたしがあなたの姉および妹を受け、またあなたとの契約によらずに、娘として彼らをあなたに与える時、あなたは自分のおこなひを思い出して恥じる。<sup>六二</sup>わたしはあなたと契約を立て、あなたはわたしが主であることを

知るようになる。六三こうしてすべてあなたの行ったことにつき、わたしがあなたをゆるす時、あなたはそれを思い出して恥じ、その恥のゆえに重ねて口を開くことがないと、主なる神は言われる。

第七章 時に主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、イスラエルの家になぞをかけ、たとえを語って、三言え。主なる神がこう言われる、さまざまの色の羽毛を多く持ち、大きな翼と、長い羽根とを持つ大わしがレバノンに来て、香柏のこずえにとまり、四その若枝の頂を摘み切り、これを商業の地に運び、商人の町に置いた。五またその地の種をとって、これを肥えた土に植えた。すなわち水の多い所にもって行って、柳を植えるようにこれを植えた。六これが成長して、たけ低く、はびこるぶどうの木となり、枝はわしに向かい、根はわしの下にあり、こうしてついにぶどうの木となり、枝を伸ばし、葉を出した。

七ここにまた大きな翼と、羽毛の多いほかの一羽の大わしがあった。見よ、このぶどうの木は、潤いを得るために、その根をわしに向かつてまげ、その枝をわしに向かつて伸ばした。八これが枝を出し、実を結び、みごとにぶどうの木となるために、わしはこれを植えた苗床から水の多い良い地に移し植えた。九あなたは、主なる神がこう言われると言え、これは栄えるであろうか。わしはその根を抜き、その枝を切り、その若葉を皆枯らさな

いであろうか。これをその根からあげるには、強い腕や多くの民を必要としない。一〇見よ、それが移し植えられたら、また栄えるであろうか。東風がこれを打つ時、それは枯れてしまわないであろうか。その育った苗床で枯れないであろうか。

二主の言葉がまたわたしに臨んだ、二三反逆の家に言え。これらがなんであるかをあなたがたは知らないのか。彼らに言え、見よ、バビロンの王がエルサレムにきて、その王とつかさとを捕え、これをバビロンに引いて行った。二四また王の子孫のひとりをつかえて、これを結び、誓いを立てさせ、また国のおもだった人々をつかえて行った。二五これはこの国を卑しくして、みずから立つことができないようにし、その契約を守ることによって立たせるためである。二六しかし彼はバビロンの王にそむき、使者をエジプトに送って、馬と多くの兵とをそこから獲ようとした。彼は成功するだろうか。このようなことをなす者は、のがれることができるか。二七契約を破ってなおのがれることができるか。主なる神は言われる、わたしは生きてゐる、必ず彼は自分を王となした王の住む所、彼が立てた誓いを軽んじ、その契約を破った相手の王のいるバビロンで彼は死ぬ。二八多くの命を断つために壘を築き、雲梯を建てる時、パロは決して大いなる軍勢と、多くの人をもつて、彼を助けて戦いをしない。二九彼は誓いを軽んじ、契約を破り、その手与

えて誓いながら、なおこれらの事をしたゆえ、のがれることはできない。一〇それゆえ、主なる神はこう言われる、わたしは生きてゐる、彼がわたしの誓いを軽んじ、わたしの契約を破ったことを、必ず彼のこうべに報いる。二〇わたしはわが網を彼の上に打ちかけ、彼をわがわなに捕えて、バビロンに引いて行き、彼がわたしにむかつて犯した反逆のために、その所で彼をさばく。二三彼のすべての軍隊のえり抜き、兵士は皆つるぎに倒れ、生き残つた者は八方に散らされる。そしてあなたがたは主なるわたしに、これを語つたことを知るようになる。

三主なる神はこう言われる、「わたしはまた香柏の高いこずえから小枝をとつて、これを植え、その若芽の頂から柔らかい芽を摘みとり、これを高いすぐれた山に植える。二三わたしはイスラエルの高い山にこれを植える。これは枝を出し、実を結び、みごとに香柏となり、その下にもろもろの種類の獣が住み、その枝の陰に各種の鳥が巣をつくる。二四そして野のすべての木は、主なるわたしが高い木を低くし、低い木を高くし、緑の木を枯らし、枯れ木を緑にすることを知るようになる。主であるわたしはこれを語り、これをするのである」。

第一八章 「主の言葉がわたしに臨んだ、三あなたがたがイスラエルの地について、このことわざを用い、『父たちが、酔いぶどうを食べたので子供たちの歯がうく』というのはどんなわけか。三主なる神は言われ

る、わたしは生きてゐる、あなたがたは再びイスラエルでこのことわざを用いることはない。四見よ、すべての魂はわたしのものである。父の魂も子の魂もわたしのものである。罪を犯した魂は必ず死ぬ。

五人がもし正しくあつて、公道と正義とを行ひ、六山上で食事をせず、また目をあげてイスラエルの家の偶像を仰がず、隣り人の妻を犯さず、汚れの時にある女に近づかず、七だれをもしえたげず、質物を返し、決して奪わず、食物を飢えた者に与え、裸の者に衣服を着せ、八利息や高利をとつて貸さず、手をひいて悪を行わず、人と人との間に真実のさばきを行ひ、九わたしの定めに歩み、わたしのおきてを忠実に守るならば、彼は正しい人である。彼は必ず生きることができると、主なる神は言われる。

一〇しかし彼が子を生み、その子が荒い者で、人の血を流し、これらの義務の一つをも行わず、二かえつて山の上で食事をし、隣り人の妻を犯し、三乏しい者や貧しい者をしえたげ、物を奪ひ、質物を返さず、目をあげて偶像を仰ぎ、憎むべき事をおこない、四利息や高利をとつて貸すならば、その子は生きるであらうか。彼は生きることとはできない。彼はこれらの憎むべき事をしたので、必ず死に、その血は彼自身に帰する。

五しかし彼が子を生み、その子が父の行つたすべての罪を見て、恐れ、そのようなことを行わず、六山の上で



食事せず、目をあげてイスラエルの家の偶像を仰がず、隣り人の妻を犯さず、一六だれをもしえたげず、質物をひき留めず、物を奪わず、かえって自分の食物を飢えた者に与え、裸の者に衣服を着せ、一七その手をひいて悪を行わず、利息や高利をとらず、わたしのおきてを行い、わたしの定めに進むならば、彼はその父の悪のために死なず、必ず生きる。一八しかしその父は人をかすめ、その兄弟の物を奪い、その民の中で良くない事を行ったゆえ、見よ、彼はその悪のために死ぬ。

一九しかしあなたがたは、『なぜ、子は父の悪を負わないのか』と言う。子は公道と正義とを行い、わたしのすべての定めを守っておこなったので、必ず生きるのである。二〇罪を犯す魂は死ぬ。子は父の悪を負わない。父は子の悪を負わない。義人の義はその人に帰し、悪人の悪はその人に帰する。

二一しかし、悪人がもしその行つたもろの罪を離れ、わたしのすべての定めを守り、公道と正義とを行うならば、彼は必ず生きる。死ぬことはない。三その犯したもろものとは、彼に対して覚えられない。彼はそのなした正しい事のために生きる。二四主なる神は言われる、わたしは悪人の死を好むであろうか。むしろ彼がそのおこないを離れて生きることを好んでゐるではないか。二五しかし義人がもしその義を離れて悪を行い、悪人のなすもろもの憎むべき事を行うならば、生きるであろう

か。彼が行つたもろの正しい事は覚えられない。彼はその犯したとがと、その犯した罪とのために死ぬ。

二六しかしあなたがたは、『主のおこないは正しくない』と言う。イスラエルの家よ、聞け。わたしのおこないは正しくないのか。正しくないのは、あなたがたのおこないではないか。二七義人がその義を離れて悪を行い、そのために死ぬならば、彼は自分の行つた悪のために死ぬのである。二八しかし悪人がその行つた悪を離れて、公道と正義とを行うならば、彼は自分の命を救うことができる。二九彼は省みて、その犯したすべてのとがを離れたのだから必ず生きる。死ぬことはない。三〇しかしイスラエルの家は『主のおこないは正しくない』と言う。イスラエルの家よ、わたしのおこないは、はたして正しくないのか。三〇それゆえ、イスラエルの家よ、わたしはあなたがたを、おのおのそのおこないに従つてさばくと、主なる神は言われる。悔い改めて、あなたがたのすべてのとがを離れよ。さもないと悪はあなたがたを滅ぼす。三二あなたがたがわたしに対しておこなつたすべてのとがを捨て去り、新しい心と、新しい霊とを得よ。イスラエルの家よ、あなたがたはどうして死んでやろうか。三三わたしは何人の死をも喜ばないのであると、主なる神は言われる。それゆえ、あなたがたは翻つて生きよ。

第一九章 一あなたがたはイスラエルの君たちのため

に悲しみの歌をのべて、

三言え、

あなたの母はししのうちにあつて、

どんな雌じしであつたろう。

彼女は若いししのうちに伏して子じしを養つた。

三彼女は子じしの一つを育てたが、

それは若いししとなつて、

獲物をとることを学び、人を食へた。

四国々の人は彼に対して叫び声をあげ、

落し穴でこれを捕え、

かぎでこれをエジプトの地に引いて行つた。

五雌じしは自分の思いが破れ、

その望みを失つたのを見たので、

ほかの子じしをとつて、これを若い子じしとした。

六彼はししのうちに行き来し、若いししとなつて、

獲物をとることを学び、人を食へた。

七彼はその要害を荒し、その町々を滅ぼした。

そのほえる声によつて、

その地とその中に満ちるものとは皆恐れた。

八そこで国々の人は彼に対して四方にわなを設け、

彼に網を打ちかけ、落し穴で彼を捕えた。

九彼らはかぎをもつて、これをかごに入れ、

これをバビロンの王のもとに連れて行き、

再びその声をイスラエルの山々に

聞えさせないようにした。

一〇あなたの母は水のほとりに移し植えられた

ぶどう畑のぶどうの木のように、

水が多いために実りがよく、枝がはびこつた。

二その強い幹は君たる者のつえとなつた。

それは茂みの中に高くそびえ、

多くの枝をつけて高く見えた。

三しかしこのぶどうの木は憤りによつて抜かれ、

地に投げうたれ、東風がそれを枯らし、

その実はもぎ取られ、その強い幹は枯れて、

火に焼き滅ぼされた。

三三今これは荒野に、

かわいた、水の無い地に移し植えられ、

火がその幹から出て、その枝と実とを滅ぼしたので、

強い幹で、君たる者のつえと

なるべきものはそこにない。

これが悲しみの言葉、また悲しみの歌となつた。

第二章 第七年の五月十日に、イスラエルの

長老たちのある人々が、主に尋ねるためにきて、わたし

の前に座した。二時に主の言葉がわたしに臨んだ、

の子よ、イスラエルの長老たちに告げて言え。主なる神

はこう言われる、あなたがたがわたしのもとに來たのは、

わたしに何か尋ねるためであるか。主なる神は言われ

る、わたしは生きてゐる、わたしはあなたがたの尋ねに

答えない。四 あなたは彼らをさばこうとするのか。人の子よ、あなたは彼らをさばこうとするのか。それなら彼らの先祖たちのした憎むべき事を彼らに知らせ、五 かつ彼らに言え。主なる神はこう言われる、わたしがイスラエルを選び、ヤコブの家の子孫に誓い、エジプトの地でわたし自身を彼らに知らせ、彼らに誓って、わたしはあなたがたの神、主であると言った日、六 その日にわたしは彼らに誓って、エジプトの地から彼らを導き出し、わたしは彼らのために探り求めた乳と蜜との流れる地、全地の中で最もすばらしい所へ行かせると言った。七 わたしは彼らに言った、あなたがたは、おのおのその目を樂しませる憎むべきものを捨てよ。エジプトの偶像をもつて、その身を汚すな。わたしはあなたがたの神、主であると。八 ところが彼らはわたしにそむき、わたしの言うことを聞こうとしなかった。彼らは、おのおのその目を樂しませた憎むべきものを捨てず、またエジプトの偶像を捨てなかった。

それで、わたしはエジプトの地のうちで、わたしの憤りを彼らに注ぎ、わたしの怒りを彼らに漏らそうと思つた。九 しかしわたしはわたしの名のために行動した。それはエジプトの地から彼らを導き出して、周囲に住んでいた異邦人たちに、わたしのことを知らせ、わたしの名が彼らの目の前に、はずかしめられないためである。一〇 すなわち、わたしはエジプトの地から彼らを導き出し

て、荒野に連れて行き、二 わたしの定めを彼らに授け、わたしのおきてを彼らに示した。これは人がこれを行うことによつて生きるものである。三 わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別したことを、彼らに知らせるためである。四 しかしイスラエルの家は荒野でわたしにそむき、わたしの定めに進まず、人がそれを行うことによつて、生きることのできるわたしのおきてを捨て、大いにわたしの安息日を汚した。

そこでわたしは荒野で、わたしの憤りを彼らの上に注ぎ、これを滅ぼそうと思つたが、五 わたしはわたしの名のために行動した。それはわたしが彼らを導き出して見せた異邦人の前に、わたしの名が汚されないうためである。六 ただし、わたしは荒野で彼らに誓い、わたしが彼らに与えた乳と蜜との流れる地、全地の最もすばらしい地に、彼らを導かないと言つた。七 これは彼らがその心に偶像を慕つて、わがおきてを捨て、わが定めに進まず、わが安息日を汚したからである。八 けれどもわたしは彼らを惜しみ見て、彼らを滅ぼさず、荒野で彼らを絶やさなかつた。

九 わたしはまた荒野で彼らの子どもたちに言つた、あなたがたの先祖の定めに進んではならない。そのおきてを守つてはならない。その偶像をもつて、あなたがたの身を汚してはならない。一〇 主なるわたしはあなたがたの



神である。わが定めに歩み、わがおきてを守ってこれを行ひ、<sup>二〇</sup>わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなつて、主なるわがしがあるあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。しかしその子どもたちはわたしにそむき、わが定めに歩まず、人がこれを行うことによつて、生きることのできるわたしのおきてを守り行わず、わが安息日を汚した。

そこでわたしはわが憤りを彼らの上に注ぎ、荒野で彼らに対し、わが怒りを漏らそうと思つた。<sup>二三</sup>しかしわたしはわが手を翻して、わが名のために行動した。それはわたしは彼らを導き出して見せた異邦人の前に、わたしの名が汚されないためである。<sup>二四</sup>ただしわたしは荒野で彼らに誓ひ、わたしは異邦人の間に彼らを散らし、国々の中に彼らをふりまくと言つた。<sup>二五</sup>これは彼らがわがおきてを行わず、わが定めを捨て、わが安息日を汚し、彼らの目にその先祖の偶像を慕つたからである。<sup>二六</sup>またわたしは彼らに良くない定めと、それによつて生きることのできないおきてとを与へ、<sup>二七</sup>そして、彼らのういごに火の中を通らせるその供え物によつて、彼らを汚し、彼らを恐れさせた。わたしがこれを行つたのは、わたしが主であることを、彼らに知らせるためである。

<sup>二七</sup>それゆゑ人の子よ、イスラエルの家に告げて言へ。主なる神はこう言われる、あなたがたの先祖はまた、不

信の罪を犯してわたしを汚した。<sup>二八</sup>わたしが彼らに与えようと誓つた地に、彼らを導き入れた時、彼らはすべての高い丘と、すべての茂つた木とを見て、その所で犠牲をささげ、忌むべき供え物をささげ、またこうばしいかおりをその所に上らせ、その所に灌祭を注いだ。<sup>二九</sup>わたしは彼らに言つた、あなたがたが通うその高き所はな

んであるか。それでその名は今日までバマととなえられている。<sup>三〇</sup>それゆゑ、イスラエルの家に言へ。主なる神はこう言われる、あなたがたは、その先祖のおこないに従つて、その身を汚し、その憎むべきものを慕うのか。<sup>三一</sup>あなたがたは、その供え物をささげ、その子供に火の中を通らせて、今日まですべての偶像をもつて、その身を汚すのである。イスラエルの家よ、わたしは、なおあなたがたに尋ねられるべきであろうか。わたしは生きている。わたしは決してあなたがたに尋ねられるはずはないと、主なる神は言われる。<sup>三二</sup>あなたがたの心にあること、すなわち『われわれは異邦人のようになり、国々のもろもろのやからのようになつて、木や石を拜もう』との考えは決して成就しない。<sup>三三</sup>主なる神は言われる、わたしは生きている、わたしは必ず強い手と伸べた腕と注がれた憤りとをもつて、あなたがたを治める。<sup>三四</sup>わたしはわが強い手と伸べた腕と注がれた憤りとをもつて、あなたがたをもろもろの民の中から導き出し、その散らされた国々から集め、<sup>三五</sup>もろ

もろの民の荒野に導き入れ、その所で顔と顔とを合わせ、あなたがたをさばく。三六 すなわち、エジプトの地の荒野で、あなたがたの先祖をさばいたように、わたしはあなたがたをさばくと、主なる神は言われる。三七 わたしはあなたがたに、むちの下を通らせ、数えてはいらせ、三八 あなたがたのうちから、従わぬ者と、わたしにそむいた者とを分かち、その寄留した地から、彼らを導き出す。しかし彼らはイスラエルの地に入ることにはできない。こうしてあなたがたはわたしに主であることを知るようになる。

三九 それで、イスラエルの家よ、主なる神はこう言われる、あなたがたはわたしに聞かないなら、今も後も、おのおのその偶像に行つて仕えるがよい。しかし再び供え物と偶像とをもつて、わたしの聖なる名を汚してはならない。

四〇 主なる神は言われる、わたしの聖なる山、イスラエルの高い山の上で、イスラエルの全家はその地で、ことごとくわたしに仕える。その所でわたしは喜んで彼らを受け入れ、あなたがたのささげ物と最上の供え物とを、その聖なるささげ物と共に求める。四一 わたしがあなたがたをもるもろの民の中から導き出し、かつてあなたがたを散らした国々から集める時、こうばしいかおりとして、あなたがたを喜んで受け入れる。そしてわたしは異邦人の前で、あなたがたの中に、わたしの聖なることをあら

わす。四二 こうしてわたしがあなたがたを、イスラエルの地、すなわちあなたがたの先祖たちに与えたと誓った地に、はいらせる時、あなたがたはわたしに主であることを知るようになる。四三 またその所であなたがたは、その身を汚したあなたがたのおこないと、すべてのわざとを思い出し、みずから行ったすべての悪事のために、自分を忌みきらうようになる。四四 イスラエルの家よ、わたしがあなたがたの悪しきおこないによらず、またその腐れたわざによらず、わたしの名のために、あなたがたを扱う時、あなたがたはわたしに主であることを知るのであると、主なる神は言われる。

四五 主の言葉がまたわたしに臨んだ、四六 人の子よ、顔を南に向け、南に向かつて語り、ネゲブの森の地に対し、預言せよ。四七 すなわちネゲブの森に言え、主の言葉を聞け、主なる神はこう言われる、見よ、わたしはあなたのうちに火を燃やす。その火はあなたのうちのすべての青木と、すべての枯れ木を焼き滅ぼし、その燃える炎は消されることがなく、南から北まで、すべての地のおもては、これがために焼ける。四八 すべての肉なる者は、主なるわたしにこれを焼いたことを見る。その火は消されない。四九 そこでわたしは言った、「ああ主なる神よ、彼らはわたしについてこう語っています、『彼はたとえをもつて語る者ではないか』と」。

第二一章 主の言葉がわたしに臨んだ、五〇 人の

子よ、あなたの顔をエルサレムに向け、あなたの言葉を聖所に向けてのべ、イスラエルの地に向かって預言し、  
 三「イスラエルの地に言え。主はこう言われる、見よ、わたしはあなたを攻め、わたしのつるぎをさやから抜き、あなたのうちから、正しい者も悪しき者をも断つてしまふ。  
 四「わたしがああなたのうちから、正しい者も悪しき者をも断つゆえに、わたしのつるぎはさやから抜け出て、南から北までのすべての肉なる者を攻める。  
 五「すべて肉なる者は、主なるわたしが、そのつるぎをさやから抜き放つたことを知る。このつるぎは再びさやに納められない。  
 六「それゆえ、人の子よ、嘆け、心碎けるまでに嘆き、彼らの目の前でいたく嘆け。  
 七「人があなたに向かつて、『なぜ嘆くのか』と言うなら、『この知らせのためである。それが来れば人の心はみな溶け、手はみななえ、霊はみな弱り、ひざはみな水のようになる。見よ、それは来る、必ず成就する』と言え」と主なる神は言われる。  
 八「主の言葉がわたしに臨んだ、  
 九「人の子よ、預言して言え、主はこう言われる、  
 つるぎがある、  
 とぎ、かつ、みがいたつるぎがある。  
 一〇「殺すためにといであり、  
 一「いならずまのようにきらめくためにみがいてある。  
 わたしたちは喜ぶことができるか。わが子よ、あなたはつえと、すべて木で作ったものを軽んじた。ここのつ

るぎは手にとるために、とがれ、殺す者の手に渡すために、とがれみがかれるのである。  
 三「人の子よ、叫び嘆け、このことはわが民に臨み、イスラエルのすべての君たちに臨むからである。彼らはわが民と共につるぎにわたされる。それゆえ、あなたのももを打て。  
 三「これはためしにすることではない。もしあなたが、つえをあざけつたら、どういふことになるうか」と主なる神は言われる。  
 四「それゆえ、人の子よ、あなたは預言し、手を打ちなせ。つるぎを二度も三度も臨ませよ。これは人を殺すつるぎ、大いに殺すつるぎであつて、彼らを囲むものである。  
 五「これがために彼らの心は溶け、多くの者がすべての門に倒れる。わたしはひらめくつるぎを彼らに送る。ああ、これはいならずまのようになり、人を殺すためにみがかれてゐる。  
 六「あなたの刃の向かうところで、右に左になぎ倒せ。  
 七「わたしもまた、わたしの手を打ちならし、わたしの怒りをしずめると、主なるわたしは言つた」。

八「主の言葉がまたわたしに臨んだ、  
 九「人の子よ、バビロンの王のつるぎが来るために、一二つの道を備えよ。この二つの道は一つの国から出ている。あなたは道しるべを作り、これを町に向かう道のはじめに置け。  
 一〇「あなたはまたアンモンの人々のラバと、ユダと、堅固な城の町エルサレムとにつるぎの来る道を設けよ。  
 一一「バビロンの王は道の分れ目、二つの道のはじめに立つて占いをし、



矢をふり、テラピムに問ひ、肝を見る。三彼の右にエルサレムのために占ひが出る。すなわち口を開いて叫び、声をあげ、ときを作り、門に向かつて城くずしを設け、塁を築き、雲梯を建てよと言ふ。四しかしこれは彼らの目には偽りの占ひと思われ、彼らは堅き誓いをなした。しかし彼は、彼らを捕えることによって、罪を思い出させる。

二四それゆえ、主なる神はこう言われる、あなたがたの罪は覚えられ、その反逆は現れ、その罪はすべてのわざに現れる。このようにあなたがたは、すでに覚えられてゐるから、彼らの手に捕えられる。二五汚れた悪人であるイスラエルの君よ、あなたの終りの刑罰の時であるその日が来る。二六主なる神はこう言われる、かぶり物を脱ぎ、冠を取り離せ。すべてのものは、そのままには残らない。卑しい者は高くされ、高い者は卑しくされる。二七あ、破滅、破滅、破滅、わたしはこれをこさせる。わたしは与える権威をもつ者が来る時まで、その跡形さえも残らない。

二八人の子よ、預言して言え。主なる神はアンモンの人と、そのあざけりについて、こう言われる、つるぎがある。このつるぎは殺すために抜かれ、いなずまのようににひかりきらめくようにとがれている。二九彼らがあなたに偽りの幻を示し、偽りを占ったゆえ、これは殺さるべき悪しき者の首の上に置かれる。彼らの終りの刑罰の時

であるその日がきてゐる。三〇これをさやに納めよ、わたしはあなたの造られた所、あなたの生れた地であなをさばく。三わたしは怒りをあなたに注ぎ、わたしの憤りの火をあなたに向けて燃やし、滅ぼすことに巧みな残忍な人の手にあなたを渡す。三二あなたは火のための、たきぎとなり、あなたの血は国の中に流され、覚えられることはない、主なるわたしが言う。

第二章 一また主の言葉がわたしに臨んで言った、三三人の子よ、あなたはさばくのか。血を流すこの町をさばくのか。それならこの町にそのもろもろの憎むべき事を示して、三言え。主なる神はこう言われる、自分のうちに血を流して、その刑罰の時をまねき、偶像を造つてその身を汚す町よ、四あなたはその流した血によつて罪を得、その造つた偶像によつて汚れ、あなたの日を近づかせ、あなたの年の定めの時はいきた。それゆえわたしはあなたをもろもろの国民のあざけりとなし、万国の物笑いとする。五あなたに近い者も、遠い者も、汚れと、混乱に満ちてゐるあなたをあざける。

六見よ、あなたのうちのイスラエルの君たちは、おのおのその力にしたがつて、血を流そうとしてゐる。七父はあなたのうちで卑しめられ、寄留者はあなたのうちで虐待をうけ、みなしごと、やもめとはあなたのうちで悩まされてゐる。八あなたはわたしの聖なるものを卑しめ、わたしの安息日を汚した。九人をのしつて血を流

そうとする者は、あなたのうちにおり、人々はあなたのうちで、山の上で食事をし、あなたのうちで、みだらなおこないをし、<sup>二〇</sup>あなたのうちで、父の裸を現し、あなたのうちで、汚れのうちにある女を犯す。<sup>二一</sup>またあなたのうちに、その隣の妻と憎むべき事を行う者があり、淫行をもつて、その嫁を汚す者があり、自分の父の娘である自分の姉妹を犯す者があり、<sup>二二</sup>また血を流そうとして、あなたのうちで、まいないを取る者がある。あなたは利息と高利とを取り、しえたげによって、あなたの隣り人のものをかすめ、そしてわたしを忘れてしまったと、主なる神は言われる。

<sup>二三</sup>それゆえ見よ、あなたが得た不正の利の事、およびあなたのうちにある流血の事に対して、わたしは手を打ちなからず。<sup>二四</sup>わたしがあなたを攻める日には、あなたの勇氣は、これに耐え得ようか。またあなたの手は強くあり得ようか。主なるわたしはこれを宣言し、これをなす。<sup>二五</sup>わたしはあなたを、もろもろの国民のうちに散らし、国々の間にまき、そしてあなたから汚れを除く。<sup>二六</sup>わたしはあなたによって、もろもろの国民の前に汚される。そしてあなたはわたしが主であることを知る。

<sup>二七</sup>主の言葉がまたわたしに臨んだ、<sup>二八</sup>人の子よ、イスラエルの家はわたしに対して、かなかすとなった。彼らはすべて炉の中の銀、青銅、すず、鉄、鉛のかなかすとなった。<sup>二九</sup>それゆえ、主なる神はこう言われる、あな

たがたは皆かなかすとなったゆえ、見よ、わたしはあなたがたをエルサレムの中に集める。<sup>三〇</sup>人が銀、青銅、鉄、鉛、すずなどを炉の中に集め、これに火を吹きかけて溶かすように、わたしは怒りと憤りをもつて、あなたがたを集め入れて溶かす。<sup>三一</sup>すなわち、わたしはあなたがたを集め、わたしの怒りの火を、あなたがたに吹きかけらる。あなたがたはその中で溶ける。<sup>三二</sup>銀が炉の中で溶けるように、あなたがたもその中で溶ける。そしてあなたがたは主なるわたしが、あなたがたの上に、わたしの怒りを注いだことを知るようになる。

<sup>三三</sup>主の言葉がまたわたしに臨んだ、<sup>三四</sup>人の子よ、これに言え、あなたは怒りの日に清められず、また雨の降らない地である。<sup>三五</sup>その中の君たちは、獲物を裂くほえるしのような者で、彼らは人々を滅ぼし、宝と尊い物とを取り、そのうちに、やもめの数をふやす。<sup>三六</sup>その祭司たちはわが律法を犯し、聖なる物を汚した。彼らは聖なる物と汚れた者とを区別せず、清くない物と清い物との違いを教えず、わが安息日を無視し、こうしてわたしは彼らの間に汚されている。<sup>三七</sup>その中にいる君たちは、獲物を裂くおおかみのようで、血を流し、不正の利を得るために人々を滅ぼす。<sup>三八</sup>その預言者たちは、水しっくいのでこれを塗り、偽りの幻を見、彼らに偽りを占い、主が語らないのに『主なる神はこう言われる』と言ふ。<sup>三九</sup>国の民はしえたげを行い、奪うことをなし、乏しい者

と貧しい者とをかすめ、不法に他国人をしえたぐ。三〇わたしは、国のために石がきを築き、わたしの前にあつて、破れ口に立ち、わたしにこれを滅ぼさせないようにする者を、彼らのうちに尋ねたが得られなかった。三それゆゑ、わたしはわが怒りを彼らの上に注ぎ、わが憤りの火をもつて彼らを滅ぼし、彼らのおこないを、そのこうべに報いたと、主なる神は言われる。

第二三章 主の言葉がわたしに臨んだ、三一人の子よ、ここにふたりの女があつた。ひとりの母の娘である。三彼らはエジプトで淫行をした。彼らは若い時に淫行をした。すなわちその所で彼らの胸は押され、その処女の乳ぶさはいじられた。四彼らの名は姉はアホラ、妹はアホリバである。彼らはわたしのものとなつて、むすこ娘たちを産んだ。その本名はアホラはサマリヤ、アホリバはエルサレムである。

五アホラはわたしのものである間に淫行をなし、その恋人なるアッスリヤびとにこがれた。六すなわち紫の衣をきた軍人、長官、司令官、すべて好ましい若者、馬に乗る者たちである。七彼女は彼らに淫行を供えた。彼らはすべてアッスリヤのえり抜きの人々である。彼女はまた、そのこがれたすべての者のもろもろの偶像をもつて、おのれを汚した。八彼女はエジプトの日からおこなつていた、その淫行を捨てなかつた。それは彼女の若い時に、彼らが彼女と寝、その処女の乳ぶさをいじり、その情欲

を彼女のうへに注いだからである。九それゆゑ、わたしは彼女をその恋人の手に渡し、そのこがれたアッスリヤの人々の手に渡した。一〇彼らは彼女の裸を現し、そのむすこ娘たちを奪い、つるぎをもつて彼女を殺した。こうして彼女に対するさばきが行われたとき、彼女は女たちの間の語り草となつた。

二その妹アホリバはこれを見て、姉よりも情欲をほしのままにし、姉の淫行よりも多く淫行をなし、三アッスリヤの人々に恋いこがれた。長官、司令官、盛装した軍人、馬に乗る者たちで、すべて好ましい若者たちである。三わたしは彼女が身を汚したのを見た。彼らは共に一つの道をたどつたが、四彼女はさらにその淫行を続け、壁に描いた人々を見た。すなわち朱で描いたカルデヤびとの像で、五腰には帯を結び、頭にはたれさがつたずきんをいただいていた。これらはみな官吏のような姿で、その生れた国カルデヤのパビロン人に似ていた。六彼女はこれらを見て、これに恋いこがれ、使者をカルデヤの彼らのもとに送つた。七そこでパビロンの人々は彼女のもとに来て、恋の床につき、情欲をもつて彼女を汚したが、彼女は彼らに汚されるにおよんで、その心は彼らから離れた。八彼女がその淫行を公然と続け、その裸をさらしたので、わたしの心は彼女から離れた。これはあたかもわたしの心が、彼女の姉から離れたと同様である。九しかし彼女はなおエジプトの地で姦淫をしたその若き



日を覚えて、その淫行を続け、<sup>二〇</sup>その情夫たちに恋いこがれた。その人の肉は、ろばの肉のごとく、その精は馬の精のようであった。<sup>二一</sup>このようにあなたは、かのエジプトびとが、あなたの胸に手をつけ、あなたの若い乳ぶさをおさえた時の、若い時の淫行を慕っている。

<sup>二三</sup>それゆえ、アホリバよ、主なる神はこう言われる、「見よ、わたしは、あなたの心がすでに離れたあなたの恋人らを起して、あなたを攻めさせ、彼らに四方から来て、あなたを攻めさせる。<sup>二四</sup>すなわちバビロンの人々およびカルデヤのすべての人々、ペコデ、シヨア、コア、アツスリヤのすべての人々、好ましい若者、長官、司令官、官吏、軍人など、すべて馬に乗る者たちである。<sup>二五</sup>彼らは戦車、貨車、および多くの民を率いて、北からあなたに攻めて来る。大盾、小盾、かぶとを備えて、四方からあなたに攻めかかる。わたしが彼らにさばきをゆだねるゆえ、彼らは、そのおきてに従って、あなたをさばく。<sup>二六</sup>わたしはあなたに向かつてわたしの憤りを起すゆえ、彼らは怒りをもってあなたを扱い、あなたの鼻と耳とを切り落とし、そして残りの者はつるぎに倒れる。彼らはあなたのむすこ娘たちを奪い、生き残った者を火で焼く。<sup>二七</sup>彼らはまたあなたの衣服をはぎ取り、あなたの美しい飾りを取り去る。<sup>二八</sup>こうしてわたしはあなたの淫乱と、エジプトの地から持って来た淫行とを取り除き、重ねてあなたの目を、エジプトびとに向けて上げさせず、彼ら

の事を思わないようにする。<sup>二八</sup>主なる神はこう言われる、見よ、わたしはあなたの憎む者の手、あなたの心の離れた者の手にあなたを渡す。<sup>二九</sup>彼らは憎しみをもってあなたを扱い、あなたの所得をことごとく取り去り、あなたを赤はだかにし、あなたの淫行の裸を現す。あなたの淫乱と淫行とのゆえに、<sup>三〇</sup>すなわち、あなたが異邦人を慕って姦淫を行い、彼らの偶像をもって身を汚したゆえに、これらのことがあなたに臨むのだ。<sup>三一</sup>あなたはその姉の道を歩んだので、わたしも彼女の杯をあなたにわたす。<sup>三二</sup>主なる神はこう言われる、

あなたは姉の深い、大きな杯を飲み、

笑い物となり、あざけりとなる、

この杯にはそれらが多くこもっている。

<sup>三三</sup>あなたは酔いと愛いとに満たされる。

驚きと滅びの杯、

これがあなたの姉サマリヤの杯である。

<sup>三四</sup>あなたはこれを飲みこれをかたむけ、

あなたの髪の毛をひきむしり、

あなたの乳ぶさをかきさく。

わたしがこれを言うと、主なる神は言われる。<sup>三五</sup>それゆえ、主なる神はこう言われる、あなたはわたしを忘れ、

わたしをあなたのうしろに捨て去ったゆえ、あなたは自分の淫乱と淫行との罪を負わねばならぬ。

<sup>三六</sup>主はわたしに言われた、「人の子よ、あなたはアホラ

とアホリバをさばくのか。それならば彼らにその憎むべき事を告げよ。三七 彼らは姦淫を行い、血が彼らの手の上にある。彼らはその偶像と姦淫を行い、またわたしに産んだ子らを、食物のために彼らにささげた。三八 さらに彼らは、わたしに対してこのようにした。すなわち、彼らは同じ日にわたしの聖所を汚し、わたしの安息日を犯した。三九 彼らはその子らを、偶像にささげるためにほふつた同じ日に、わたしの聖所にきて、これを汚した。見よ、彼らがわたしの家の中でしたことはこれである。四〇 さらに彼らは使者をやつて、遠くから来るように人々を招いた。見よ、彼らはきた。あなたは、この人々のために身を洗い、目を描き、飾り物を身につけ、四一 尊い床に座し、食卓をその前に設け、わたしの香と、わたしの油とを、その上に供えた。四二 こうして、のんきな群衆の声は彼女と共にあり、また、荒野から連れて来た通りがかりの酔いどれも、彼らと共にいた。彼らは女たちの手に腕輪をはめさせ、頭に美しい冠をいただかせた。

四三 そこでわたしは言った、彼女と姦淫を行う時、人々は姦淫を犯さないであろうか。四四 人が遊女の所にはいるように、彼らは彼女の所にはいった。こうして彼らは姦淫を行うために、アホラおよびアホリバの所にはいった。四五 しかし正しい人々は淫婦のさばきと、血を流した女のさばきとをもって、彼らをさばく。それは彼らが淫婦であつて、その手に血があるからである。

四六 主なる神はこう言われる、「わたしは軍隊を彼らに向かつて攻め上らせ、彼らを恐れと略奪とに渡す。四七 軍隊は彼らを石で打ち、つるぎで切り、そのむすこ娘たちを殺し、火でその家を焼く。四八 こうしてわたしはこの地に淫乱を絶やす。すべての女はみずからいまして、あなたがたがたがたのような淫乱を行わない。四九 あなたがたの淫乱の報いは、あなたがたの上にくんだり、あなたがたはその偶像礼拝の罪を負い、そしてわたしが主なる神であることを知るようになる」。

第二四章 「第九年の十月十日に、主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、あなたは今日すなわち今日の名を書きしるせ。バビロンの王は、この日エルサレムを包囲した。三 あなたはこの反逆の家にたとえを語つて言え。主なる神はこう言われる、

かまをすえ、これをすえて、水をくみ入れよ。

四 その中に肉の切れを入れよ、

すべて良い肉の切れ、

すなわち、ももと肩の肉をこれに入れよ。

良い骨をこれに満たせ。

五 羊の最も良いものを取れ。

かまの下にまきを積み、

その肉を煮たぎらせ、またその中の骨を煮よ。

六 それゆえ、主なる神はこう言われる、わざわざいなるかな、流血の町、さびているかま。そのさびはこれを離

れない。肉をひとつびとつ無差別に取り出せ。七その流した血はまだその中にある。彼女はこれを裸岩の上に流し、土でこれをおおうために、地面には注がなかった。八これは、わたしの怒りをつのらせ、あだを返すために、その流した血がおおわれないように、裸岩の上に流したのである。九それゆえ、主なる神はこう言われる、わざわいなるかな、流血の町。わたしもまた、まきをさらに積み重ねる。一〇まきを積み重ね、火を燃やし、肉をよく煮て、煮つくし、骨を焼け。二そしてかまを熱くするため、それをからにして炭火の上に置き、その銅を焼いて、汚れをその中に溶かし、そのさびを去れ。三しかしわたしのほねおりは、むだであつた。その多くのさびは火によつて消えない。四そのさびとは、あなたの不潔な淫行である。わたしはあなたを清めようとしたが、あなたはあなたの不潔から清められようとしなから、わたしの怒りをあなたに漏らし尽すまでは、あなたは汚れから清まることはない。五主なるわたしはこれを言った。そしてこれは必ず成る。わたしはこれをなす。わたしはやめない、惜しまない、悔いない。あなたのおこないにより、あなたのわざによつて、あなたをさばくと、主なる神は言われる。六また主の言葉がわたしに臨んだ、一六「人の子よ、見よ、わたしは、にわかにあなたの目の喜ぶ者を取り去る。嘆いてはならない。泣いてはならない。涙を流してはな

らない。一七声をたてずに嘆け。死人のために嘆き悲しむな。ずきんをかぶり、足にくつをはけ。口をおおうな。嘆きのパンを食べるな。一八朝のうちに、わたしは人々に語つたが、夕べには、わたしの妻は死んだ。翌朝わたしは命じられたようにした。

一九人々はわたしに言った、「あなたがするこの事は、われわれになんの関係があるのか、それをわれわれに告げてはくれまいか」。二〇わたしは彼らに言った、「主の言葉がわたしに臨んだ、二一『イスラエルの家に言え、主なる神はこう言われる、見よ、わたしはあなたがたの力の誇、目の喜び、心の望みであるわが聖所を汚す。あなたがたが残すむすこ娘たちは、つるぎに倒れる。二三あなたがたもわたしがしたようにし、口をおおわず、嘆きのパンを食べず、二四頭にずきんをかぶり、足にくつをはき、嘆かず、泣かず、その罪の中にやせ衰えて、互にうめくようになる。二五このようにエゼキエルはあなたがたのためにしるしとなる。彼がしたようにあなたがたもせよ。この事が成る時、あなたがたはわたしが主なる神であることを知るようになる』。二六人の子よ、わたしが、彼らのとりで、彼らの喜びと榮え、彼らの目の喜びであり、その心の望みであるもの、また彼らのむすこ娘たちを取り去る日、二七その日に難をのがれて来る者が、あなたのもとにきて、あなたに事を告げる。二八その日あなたは、そののがれてきた者に向



かつて口を開き、語り、もはや沈黙しない。こうしてあなたは彼らのためにしるしとなり、彼らはわたしが主であることを知る。

第二章 主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、あなたの顔をアンモンの人々に向け、これに向かつて預言し、アンモンの人々に言え。主なる神の言葉は聞け。主なる神はこう言われる、あなたはわが聖所の汚された時、またイスラエルの地の荒された時、またユダの家が捕え移された時、ああ、それはよい気味であると言った。四 それゆえ、わたしはあなたを、東の人々に渡して彼らの所有とする。彼らはあなたのうちに陣營を設け、あなたのうちに住居を造り、あなたのくだものを食べ、あなたの乳を飲む。五 わたしはラバを、らくだを飼う所とし、アンモンびとの町々を、羊の伏す所とする。そしてあなたがたは、わたしが主であることを知るようになる。六 主なる神はこう言われる、あなたはイスラエルの地に向かつて手をうち、足を踏み、心に悪意を満たして喜んだ。七 それゆえ、見よ、わたしはわが手をあなたに向けて伸べ、あなたを、もろもろの国民に渡し、略奪にあわせ、あなたを、もろもろの民の中から断ち、諸国の中から滅ぼし絶やす。そしてあなたは、わたしが主であることを知るようになる。

八 主なる神はわたしにこう言われる、モアブは言った、見よ、ユダの家は、他のすべての国民と同様であると。

九 それゆえ、わたしはモアブの境界の町々、すなわち国の榮えであるベテエシモテ、パアルメオン、キリアタイムの横腹を開き、これをアンモンの人々と共に、東方の人々に与えて、その所有とし、モアブの人々をもろもろの国民の中に記憶させない。二 わたしはモアブの上にさばきを行う。そのとき、彼らはわたしが主であることを知る。

三 主なる神はこう言われる、エドムは恨みをふくんでユダの家に敵対し、これに恨みを返して、はなはだしく罪を犯した。四 それゆえ、主なる神はこう言われる、わたしはエドムの上に手を伸べて、その中から人と獸とを断ち、これを荒地とする。五 テマンからデダンまで人々はつるぎに倒れる。六 わたしはわが民イスラエルの手をもつて、エドムにわがあだを報いる。彼らがわが怒り、わが憤りに従つてエドムに行う時、エドムの人々は、わたしがあだを返すことを知るようになる、主なる神は言われる。

七 主なる神はこう言われる、ペリシテびとは恨みをふくんで行動し、心に悪意をもつてあだを返し、深い敵意をもつて、滅ぼすことをした。八 それゆえ、主なる神はこう言われる、見よ、わたしは手をペリシテびとの上に伸べ、ケレテびとを断ち、海べの残りの者を滅ぼす。九 わたしは怒りに満ちた懲罰をもつて、大いなる復讐を彼らになす。わたしが彼らにあだを返す時、彼らはわた

しが主であることを知るようになる。』

**第二十六章** 第十一年の第一日に主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、ツロはエルサレムについて

言った、『ああ、それはよい気味である。もろもろの民の門は破れて、わたしに開かれた。わたしは豊かになり、彼は破れはてた』と。三 それゆえ、主なる神はこう言われる、ツロよ、わたしはあなたを攻め、海がその波を起すように、わたしは多くの国民を、あなたに攻めこさせる。四 彼らはツロの城壁をこわし、そのやぐらを倒す。わたしはその土を払い去って、裸の岩にする。五 ツロは海の中であって、網をはる場所になる。これはわたしが言ったのであると、主なる神は言われる。ツロは、もろもろの民にかすめられ、六 その本土における娘たちは、つるぎで殺される。そして彼らは、わたしが主であることを知るようになる。

七 主なる神はこう言われる、見よ、わたしは王の王なるバビロンの王ネブカデレザルに、馬、戦車、騎兵、および多くの軍勢をひきいて、北からツロに攻めこさせる。八 彼は本土におけるあなたの娘たちをつるぎで殺し、あなたに向かつて雲梯を建て、塁を築き、盾を備え、九 城くずしをあなたの城壁に向け、おのであなたのやぐらを打ち砕く。一〇 その多くの馬の土煙は、あなたをおおう。人が破れた町にはいるように、彼があなたの門にはいる時、騎兵と貨車と戦車の響きによって、あなたの石がきはゆるぐ。二 彼はその馬のひずめで、あなたのすべてのちまたを踏みあらし、つるぎであなたの民を殺す。あなたの力強い柱は地に倒れる。三 彼らはあなたの財宝を奪い、商品をかすめ、城壁をくずし、楽しい家をこわし、石と木と土とを水の中に投げ込む。四 わたしはあなたの歌の声をとどめる。琴の音はもはや聞えなくなる。五 わたしはあなたを裸の岩にする。あなたは網を張る場所となり、再び建てられることはない。主なるわたしがこれを言ったと、主なる神は言われる。

六 主なる神はツロにこう言われる、海沿いの国々はあるたの倒れる響き、手負いのうめき、あなたのうちの殺人のゆえに、身震いしないであろうか。七 その時、海の君たちは皆その位からおり、朝服を脱ぎ、縫い取りの衣服を取り去り、恐れを身にまとい、地に座して、いたく恐れ、あなたの事を驚き、八 あなたのために悲しみの歌をのべて言う、

『あなたは海にあって、強い誉ある町、本土に恐れを与えていたあなたも、その住民も、海から消え去った。』

九 島々はあなたの倒れる日に身震いする。

一〇 海の島々はあなたの去り行くことを見て驚く。』

主なる神はこう言われる、わたしはあなたを、荒れた町となし、住む者のない町のようにし、淵をあなたに向かつてわきあがらせ、大水にあなたをおおわせる時、





と取引し、多くの海沿いの国々は、あなたの市場となり、象牙と黒たんとを、みつぎとしてあなたに持ってきた。

二六 あなたの製品が多いので、エドムはあなたと商売し、彼らは赤玉、紫、縫い取りの布、細布、さんご、めのうをもつて、あなたの商品と交換した。二七 エダとイスラエルの地は、あなたと取引し、麦、オリブ、いちじく、蜜油、および乳香をもつて、あなたの商品と交換した。

二八 あなたの製品が多く、あなたの富が多いので、ダマスコはあなたと取引し、ヘルボンの酒と、さらした羊毛と、二九 ウザルの酒をもつて、あなたの商品と交換し、鉄、肉桂、菖蒲をもつて、あなたの商品と交換した。三〇 デダンは乗物の鞍敷をもつて、あなたと取引した。三二 アラビヤびと、およびケダルのすべての君たちは小羊、雄羊、やぎをもつて、あなたと取引し、これらの物をあなたと取引した。三三 シバとラアマの商人は、あなたと取引し、もろもろの尊い香料と、もろもろの宝石と金とをもつて、あなたの商品と交換した。三三 ハラン、カンネ、エデン、アッスリヤ、キルマデはあなたと取引した。三四 彼らは、はなやかな衣服と、青く縫い取りした布と、ひもで結んで、じょうぶにした敷物などをもつて、あなたと取引した。三五 タルシシの船はあなたの商品を運んでまわった。

あなた海の中にいて満ち足り、いたく栄えた。

二六 あなたのかぎ手らはあなたを大海の中に進め、海の中で東風があなたの船を破った。

二七 あなたの財宝、あなたの貨物、あなたの商品、あなたの船員、あなたのかじ取り、

あなたの漏りを繕う者、あなたの商品を商う者、あなたの中にいるすべての軍人、

あなたの中にいるすべての仲間、皆、あなたの破滅の日に海の中に沈む。

二八 あなたの破滅の日に海の中に沈む。近郷は震い、二九 あなたのかじ取りの叫び声に、

船員および海のすべてのかじ取りは海べに立ち、

三〇 あなたのために声をあげて泣き、はげしく叫び、ちりをこうべにかぶり、灰の中にまろび、

三二 あなたのために髪をそり、荒布をまとい、あなたのために心を痛めて泣き、はげしく嘆く。

三三 彼らは悲しんで、あなたのために悲しみの歌をのべ、あなたを弔って言う、

『だれかツロのように海の中で滅びたものがあるか。』

三三 あなたの商品が海を越えてきた時、

あなたは多くの民を飽かせ、

あなたの多くの財宝と商品とをもつて、

地の王たちを富ませた。

三三 今あなたは海で破船し、深い水に沈み、

あなたの商品と、あなたのすべての船員とは、

あなたと共に沈んだ。

三三 海沿いの国々に住む者は皆あなたについて驚き、

その王たちは大いに恐れてその顔を震わす。

三六 もろもろの民の中の商人らはあなたをあざける。

あなたは恐るべき終りを遂げ、

永遠にうせはてる』。

第二八章 主の言葉がわたしに臨んだ、三人の

子よ、ツロの君に言え、主なる神はこう言われる、

あなたは心に高ぶって言う、

『わたしは神である、

神々の座にすわって、海の中にいる』と。

しかし、あなたは自分を神のように賢いと思つても、

人であつて、神ではない。

三見よ、あなたはダニエルよりも賢く、

すべての秘密もあなたには隠れていない。

四あなたは知恵と悟りによつて富を得、

金銀を倉にたくわえた。

五あなたは大きいなる貿易の知恵によつて

あなたの富を増し、

その富によつてあなたの心は高ぶつた。

六それゆえ、主なる神はこう言われる、

あなたは自分を神のように賢いと思つてゐるゆえ、

七見よ、わたしは、もろもろの国民の最も恐れている

異邦人をあなたに攻めこさせる。

彼らはつるぎを抜いて、

あなたが知恵をもつて得た麗しいものに向かい、

あなたの輝きを汚し、穴に投げ入れる。

八あなたは穴に投げ入れる。

あなたは海の中で殺された者のような死を遂げる。

九それでもなおあなたは、『自分は神である』と、

あなたを殺す人々の前で言うことができるか。

あなたは自分を傷つける者の手にかかつては、

人であつて、神ではないではないか。

一〇あなたは異邦人の手によつて

割礼を受けない者の死を遂げる。

これはわたしが言うのであると、

主なる神は言われる。

二また主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、ツ

ロの王のために悲しみの歌をのべて、これに言え。主な

る神はこう言われる、

あなたは知恵に満ち、

美のきわみである完全な印である。

三あなたは神の園エデンにあつて、

もろもろの寶石が、あなたをおおっていた。

すなわち赤めのう、黄玉、青玉、貴かんらん石、

緑柱石、縞めのう、

サファイヤ、ざくろ石、エメラルド。

そしてあなたの象眼も彫刻も金でなされた。

これらはあなたの造られた日に、

あなたのために備えられた。

一四 わたしはあなたを油そそがれた者である。  
守護のケルブと一緒に置いた。

あなたは神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いた。

一五 あなたは造られた日から、

あなたの中に悪が見いだされた日までは

そのおこないが完全であつた。

一六 あなたの商売が盛んになると、

あなたの中に暴虐が満ちて、あなたは罪を犯した。

それゆえ、わたしはあなたを神の山から

汚れたものとして投げ出し、

守護のケルブはあなたを

火の石の間から追い出した。

一七 あなたは自分の美しさのために心高ぶり、

その輝きのために自分の知恵を汚したゆえに、

わたしはあなたを地に投げうち、

王たちの前に置いて見せ物とした。

一八 あなたは不正な交易をして犯した多くの罪によって

あなたの聖所を汚したゆえ、

わたしはあなたの中から火を出して

あなたを焼き、

あなたを見るすべての者の前で

あなたを地の灰とした。

一九 もろもろの民のうちであなたを知る者は皆

あなたについて驚く。あなたは恐るべき終りを遂げ、

永遠にうせはてる。

二〇 主の言葉がわたしに臨んだ、

二一 人の子よ、あなたの顔をシドンに向け、これに向かって預言して、

主なる神はこう言われる、

二二 シドンよ、見よ、わたしはあなたの敵となる、

わたしはあなたのうちで栄えをあらわす。

二三 わたしがシドンのうちにさばきをおこない、

そのうちにわたしの聖なることをあらわす時、

彼らはわたしが主であることを知る。

二四 わたしは疫病をこれに送り、

そのちまたに流血を送る。

二五 その四方からこれに臨むつるぎによって、

殺される者がその中に倒れる時、

彼らはわたしが主であることを知る。

二六 イスラエルの家には、もはや刺すいははなく、

これを卑しめたその周囲の人々のうちには、苦しめるとげ

もなくなる。こうして彼らはわたしが主であることを知

るようになる。

二七 主なる神はこう言われる、

わたしはイスラエルの家の者を、その散らされたもろもろの民の中から集め、もろもろの国民の目の前で、彼らにわたしの聖なることをあらわす時、彼らはわたしが、わがしもべヤコブに与え



た地に住むようになる。二六彼らはそこに安らかに住み、家を建て、またぶどう畑を作る。かつて彼らを卑しめたすべての隣り人たちに対して、わたしがさばきを行う時、彼らは安らかに住む。こうして彼らは、わたしが彼らの神、主であることを知る。一。

第二章 第十年の十月十二日に、主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、あなたの顔をエジプトの王パロに向け、彼とエジプト全国に対して預言し、三語つて言え。主なる神はこう言われる、

エジプトの王パロよ、見よ、わたしはあなたの敵となる。あなたはその川の中に伏す大いなる龍で、

『ナイル川はわたしのもの、

わたしがこれを造った』と言う。

四 わたしは、かぎをあなたのあごにかけ、

あなたの川の魚を、あなたのうるこにつかせ、

あなたと、あなたのうるこについている

もろもろの魚を、あなたの川から引きあげ、

五 あなたとあなたの川のもろもろの魚を、

荒野に投げ捨てる。

あなたは野の面に倒れ、

あなたを取り集める者も、葬る者もない。

わたしはあなたを

地の獣と空の鳥のえじきとして与える。

六 そしてエジプトのすべての住民はわたしが主であることを知る。あなたはイスラエルの家に対して葦のつえであった。七 彼らがあなたを手にとる時、あなたは折れ、彼らの肩はことごとく裂ける。彼らがまたあなたに寄りかかる時、あなたは破れ、彼らの腰をことごとく震えさせる。八 それゆえ、主なる神はこう言われる、見よ、わたしはつるぎをあなたに持つてきて、人と獣とをあなたのうちから断つ。九 エジプトの地は荒れて、むなしくなる。そして彼らはわたしが主であることを知る。

あなたは『ナイル川はわたしのもの、わたしがこれを造った』と言っているゆえに、一〇 見よ、わたしはあなたとあなたの川々の敵となって、エジプトの地をミグドルからスエネまで、エチオピアの境に至るまで、ことごとく荒し、むなしくする。二人の足はこれを渡らず、獣の足もこれを渡らない。四十年の間、ここに住む者はない。三 わたしはエジプトの地を荒して、荒れた国々の中に置き、その町々は荒れて、四十年のあいだ荒れた町々の中にある。わたしはエジプトびとを、もろもろの国民の中に散らし、もろもろの国の中に散らす。

三 主なる神はこう言われる、四十年の後、わたしはエジプトびとを、その散らされたもろもろの民の中から集める。四 すなわちエジプトの運命をもとに返し、彼らをその生れた地であるパテロスの地に帰らせる。その所で彼らは卑しい国となる。五 これはもろもろの国よりも卑

しくなり、再びもろもろの国民の上に出ることができない。わたしは彼らを小さくするゆえ、再びもろもろの国民を治めることはない。これはイスラエルが助けを求める時、その罪を思い出して、再びイスラエルの家の頼みとはならない。こうして彼らは、わたしが主なる神であることを知る。

第二十七年の一月一日に、主の言葉がわたしに臨んだ、「人の子よ、バビロンの王ネブカデレザルは、その軍勢をツロに対して大いに働かせた。頭は皆はげ、肩はみな破れた。しかし彼もその軍勢も、ツロに対してなしたその働きのために、なんの報いをも得なかつた。それゆえ、主なる神はこう言われる、見よ、わたしはバビロンの王ネブカデレザルに、エジプトの地を与える。彼はその財宝を取り、物をかすめ、物を奪い、それをその軍勢に与えて報いとする。彼の働いた報酬として、わたしはエジプトの地を彼に与える。彼らはわたしのために、これをしたからであると、主なる神は言われる。

三その日、わたしはイスラエルの家に、一つの角を生じさせ、あなたの口を彼らのうちに開かせる。そして彼らはわたしが主であることを知る」。

第三〇章 主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、預言して言え、主なる神はこう言われる、

嘆け、その日はわざわいだ。  
三その日は近い、主の日は近い。

これは雲の日、異邦人の滅びの時である。

四つるぎがエジプトに臨む。

エジプトで殺される者の倒れる時、エチオピアには苦しみがあり、その財宝は奪い去られ、その基は破られる。

五エチオピア、ブテ、ルデ、アラビヤ、リビヤおよび同盟国の人々は、彼らと共につるぎに倒れる。

六主はこう言われる、

エジプトを助ける者は倒れ、その誇る力はうせる。

ミグドルからスエネまで、人々はつるぎによってそのうちに倒れると、主なる神が言われる。

七それは荒れて、荒れはてた国々のうちにあり、その町々は荒れた町々のうちにある。

八わたしがエジプトに火を送り、これを助ける者が皆滅びる時、彼らはわたしが主であることを知る。

九その日、早足の使者がわたしから出て、何事も知らぬエチオピアびとを恐れさせる。そしてかのエジプトの滅びの日に、彼らに苦しみが来る。見よ、これはかならず来る。

一〇主なる神はこう言われる、わたしはバビロンの王ネブカデレザルの手によって

エジプトの富を滅ぼす。

二 彼と彼に従うその民、すなわち国民のうちの

最も恐るべき者がきて、その地を滅ぼす。

彼らはつるぎを抜いて、エジプトを攻め、

殺した者を国に満たす。

三 わたしはナイル川をからし、

その国を悪しき者の手に売り、

異邦人の手によって国とその中のものを荒す。

主なるわたしはこれを言った。

三 主なる神はこう言われる、

わたしは偶像をこわし、メンピスで偶像を滅ぼす。

エジプトの国には、もはや君たる者がなくなる。

わたしはエジプトの国に恐れを与える。

四 わたしはパテロスを荒し、

ゾアンに火を放ち、

テーベにさばきをおこない、

五 わたしの怒りを、

エジプトの要害であるペルシウムに注ぎ、

テーベの群衆を断ち、

六 エジプトに火を下す。

ペルシウムはいたく苦しみ、

テーベは打ち破られ、

七 その城壁は破壊され、

オンとピベセテの若者はつるぎに倒れ、

女たちは捕え移される。

八 わたしがエジプトの支配を碎く時、

テパネスでは日は暗くなり、

その誇る力は絶え、

雲はこれをおおい、

その娘たちは捕え移される。

九 このようにわたしはエジプトにさばきを行う。

そのとき彼らはわたしの主であることを知る。

十 第十一年の一月七日に主の言葉がわたしに臨んだ、

三 人の子よ、わたしはエジプトの王パロの腕を折った。

見よ、これは包まれず、いやされず、ほうたいをも施さ

れない。それは強くなつて、つるぎを執ることができな

い。三 それゆえ、主なる神はこう言われる、見よ、わた

しはエジプトの王パロを攻め、その強い腕と、折れた腕

とを共に折り、その手からつるぎを落させる。三 わたし

はエジプトびとを、もろもろの国民の中に散らし、国々

に散らす。二 わたしはバピロンの王の腕を強くし、わた

しのつるぎを、その手に与える。しかしわたしはパロの

腕を折るゆえ、彼は深手を負った者のように、彼の前に

うめく。二 わたしがバピロンの王の腕を強くし、パロの

腕がたれる時、彼らはわたしが主であることを知る。わ

たしがわたしのつるぎを、バピロンの王に授け、これを

エジプトの国に向かって伸べさせ、二 わたしがエジプト

びとを、もろもろの国民の中に散らし、国々に散らす時、



彼らはわたしが主であることを知る」。

### 第三章 第十一年の三月一日に主の言葉がわ

たしに臨んだ、三人の子よ、エジプトの王パロと、その民衆とに言え、

あなたはその大いなること、だれに似ているか。

見よ、わたしはあなたを

レバノンの香柏のようにする。

麗しき枝と森の陰があり、たけが高く、

その頂は雲の中にある。

水はこれを育て、

大水がこれを高くする。

その川々はその植えた所をめぐって流れ、

その流れを野のすべての木に送る。

五 これによつてそのたけは、

野のすべての木よりも高くなり、

その育つとき多くの水のために

枝葉は茂り、枝は伸び、

六 その枝葉に空のすべての鳥が、巢をつくり、

その枝の下に野のすべての獣は子を生み、

その陰にもろもろの国民は住む。

七 これはその大きなことと、

その枝の長いことによつて美しかった。

その根を多くの水に、おろしていたからである。

八 神の園の香柏も、これと競うことはできない。

もみの木もその枝葉に及ばない。

けやきもその枝と比べられない。

神の園のすべての木も、その麗しきこと、

これに比すべきものはない。

九 わたしはその枝を多くして、これを美しくした。

神の園にあるエデンの木は皆

これをうらやんだ。

一〇 それゆえ、主なる神はこう言われる、これは、たけ

が高くなり、その頂を雲の中におき、その心が高ぶりお

ごるゆえ、二 わたしはこれを、もろもろの国民の力ある

者の手に渡す。彼はこれに対してその悪のために正しい

処置をとる。わたしはこれを追い出した。三 もろもろの

国民の最も恐れている異邦人はこれを切り倒して捨て

る。その枝はもろもろの山と、すべての谷とに落ち、そ

の枝葉は碎けて、地のすべての流れにあり、地のすべて

の民は、その陰を離れて、これを捨てる。四 その倒れた

所に、空のもろもろの鳥は住み、その枝の上に、野のも

ろもろの獣はいる。五 これは水のほとりのすべての木が、

その高さのために誇ることなく、その頂を雲の中におく

ことなく、水に潤う木が、みずから高ぶり立つことのな

いためである。これらは皆、死に渡され、下の国に入り、

穴に下る者と共に他の人々のうちにいる。

五 主なる神はこう言われる、これが陰府に下る日にわ

たしが淵をこれがために悲しませ、その川々をせきとめ

るので、大水はとどまる。わたしはレバノンを、これがために嘆かせ、野のすべての木を、これがために衰えさせる。「わたしはこれを穴に下る者と共に陰府に落す時、もろもろの国民をその落ちる響きのために、打ち震えさせる。そしてエデンのすべての木、レバノンのすぐれて美しいもの、すべて水に潤うものは、下の国で慰められる。「七 彼らもこれと共に陰府に下り、つるぎで殺された者のところに至る。まことにもろもろの国民のうちで、その陰に住んだ者も滅びる。「八 エデンの木のうちで、その栄えと大いなることで、あなたはどれに似ているのか。あなたはどのように、エデンの木と共に、下の国に落され、つるぎで殺された者と共に、割れを受けない者のうちに住む。

これがバロとその民衆であると、主なる神は言われる。

**第三二章** 第十二年の十二月一日に、主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、エジプトの王バロのために、悲しみの歌をのべて、これに言え、

あなたは自分をもろもろの国民のうちの

ししであると考えているが、

あなたは海の中の龍のような者である。

あなたは川の中に、はね起き、

足で水をかきまぜ、川を濁す。

主なる神はこう言われる、

わたしは多くの民の集団をもつて、の川々をさきよめ、わたしの網をあなたに投げかけ、あなたを網で引きあげる。

わたしはあなたを地に投げ捨て、野の面に投げうち、

空のすべての鳥をあなたの上にとまらせ、全地の獣にあなたを与えて飽かせる。

わたしはあなたの肉を山々に捨て、あなたは死体で谷を満たす。

わたしはあなたの流れる血で、地を潤し、山々にまで及ぼす。

谷川はあなたの死体で満ちる。

わたしはあなたを滅ぼす時、空をおおい、星を暗くし、

雲で日をおおい、月に光を放たせない。

わたしは空の輝く光を、ことごとくあなたの上に暗くし、

あなたの国をやみとすると、主なる神は言う。

わたしはもろもろの国民、あなたの知らない国々の中に、あなたを捕え移す時、多くの民の心を痛ませる。

わたしはあなたについて、多くの民を驚かせる。その王たちは、わたしがわたしのつるぎを、彼らの前に振るう時、あなたの事でおののく。あなたの倒れる日には、

彼らはおのおの自分の命を思って、絶えず打ち震える。  
 二主なる神はこう言われる、バビロンの王のつるぎはあなたに臨む。三わたしはあなたの民衆を勇士のつるぎに倒れさせる。彼らは皆、もろもろの国民の中で、最も恐れられている者たちである。

彼らはエジプトの誇を断つ、エジプトの民衆は皆滅ぼされる。

三わたしはその家畜をことごとく、多くの水のかたわらから滅ぼす。

人の足は再びこれを濁さず、家畜のひずめもこれを乱さない。

四その時わたしはその水を清くし、その川々を油のように流れさせると、主なる神は言う。

五わたしはエジプトの国を荒し、その国に満ちるものが、ことごとく取り去られる時、

わたしがその中に住む者をことごとく撃つ時、

彼らはわたしの主であることを知る。

六これは悲しみの歌である。人々はこれを歌い、もろもろの国の娘たちはこれを歌う。すなわちエジプトと、そのすべての民衆とのために、これを歌うのであると、主なる神は言われる。

七第十二年の一月十五日に、主の言葉がわたしに臨んだ、

「八人の子よ、エジプトの民衆のために嘆き、これ

と大いなる国々の娘らとを、下の国に投げ下し、穴に下った者のところに至らせよ。

「九『あなたの美はだれにまさっているか。下って、割れを受けない者と共に伏せよ。』

彼らはつるぎに殺される者のうちに倒れる。その民衆はこれと共に伏せる。三勇士の首領はその助け手と共に、

陰府の中から彼らに言う、『割れを受けない者、つるぎに殺された者は下って伏している』と。

三アツスリヤとその仲間とはその所におり、その墓はこれを囲む。彼らはみな殺された者、またつるぎに倒れた者である。三彼らの墓は穴の奥に設けられ、その仲間

はその墓の周囲にあり、これはみな殺された者、つるぎに倒れた者、生ける者の地に恐れを起した者である。

四その所にエラムがおり、その民衆は皆、その墓の周囲におる。彼らはみな殺された者、つるぎに倒れた者、

割れを受けないで、下の国に下った者、生ける者の地に、

恐れを起した者で、穴に下る者と共に、恥を負うのである。

五彼らはそのすべての民衆と共に、殺された者の中に床を置き、その墓はこれを囲む。これは皆、割れを受けない者、つるぎに殺された者、生ける者の地に恐れを

起した者で、穴に下る者と共に恥を負う。彼らは殺された者の中に置かれている。

六その所にメセクとトバル、およびすべての民衆がおる。その墓はこれを囲む。彼らは皆、割れを受けない者



で、つるぎで殺された者である。生ける者の地に恐れを起したからである。二七彼らは昔の倒れた勇士と共に伏さない。これらの勇士は、武器を持って陰府に下り、つるぎをまくらとし、その盾は骨の上にある。これは勇士の恐れが、生ける者の地にあつたからである。二八あなたは割れを受けたい者のうちに、つるぎで殺された者と共に横たわる。

二九その所にエドムとその王たちと、そのすべての君たちがあつた。彼らはその力を持つにもかかわらず、かのつるぎで殺された者と共に横たえられ、割れを受けない者および穴に下る者と共に伏している。

三〇その所に北の君たち、およびシドンびとが皆あつた。彼らは自分の力によつて恐れを起したので、殺された者と共に恥を受けて、下つて行つた者である。彼らはつるぎで殺された者と共に、割れを受けずに伏し、穴に下る者と共に恥を負う。

三一バロは彼らを見る時、そのすべての民衆について慰められる。バロとそのすべての軍勢とは、つるぎで殺される、主なる神は言われる。三二彼は生ける者の国に恐れを広げた。それゆえ、バロとすべての民衆とは、割れを受けたい者のうちにあつて、つるぎで殺された者と共に伏すと、主なる神は言われる。

第三章 主の言葉がわたしに臨んだ、三人の子よ、あなたの民の人々に語つて言え、わたしがつるぎ

を一つの国に臨ませる時、その国の民が彼らのうちからひとりを選んで、これを自分たちの見守る者とする。三彼らは国につるぎが臨むのを見て、ラッパを吹き、民を戒める。四しかし人がラッパの音を聞いても、みずから警戒せず、ついにつるぎが来て、その人を殺したなら、その血は彼のこうべに帰する。五彼はラッパの音を聞いて、みずから警戒しなかつたのであるから、その血は彼自身に帰する。しかしその人が、みずから警戒したなら、その命は救われる。六しかし見守る者が、つるぎの臨むのを見て、ラッパを吹かず、そのため民が、みずから警戒しないので、つるぎが臨み、彼らの中のひとりや二人を失うならば、その人は、自分の罪のために殺されるが、わたしはその血の責任を、見守る者の手に求める。

七それゆえ、人の子よ、わたしはあなたを立てて、イスラエルの家を見守る者とする。あなたはわたしの口から言葉を聞き、わたしに代つて彼らを戒めよ。八わたしが悪人に向かつて、悪人よ、あなたは必ず死ぬと言つ時、あなたが悪人を戒めて、その道から離れさせるように語らなかつたら、悪人は自分の罪によつて死ぬ。しかしわたしはその血を、あなたの手に求める。九しかしあなたが悪人に、その道を離れるように戒めても、その悪人がその道を離れないなら、彼は自分の罪によつて死ぬ。しかしあなたが、あなたの命は救われる。

十それゆえ、人の子よ、イスラエルの家に言え、あな

たがたはこう言った、『われわれのとがと、罪はわれわれの上にある。われわれはその中であつて衰へてゐる。どうして生きることができようか』と。二あなたは彼らに言え、主なる神は言われる、わたしは生きてゐる。わたしは悪人の死を喜ばない。むしろ悪人が、その道を離れて生きるのを喜ぶ。あなたがたは心を翻せ、心を翻してその悪しき道を離れよ。イスラエルの家よ、あなたがたはどうして死んでよかるうか。三民の子よ、あなたの民の一人に言え、義人の義は、彼が罪を犯す時には、彼を救わない。悪人の悪は、彼がその悪を離れる時、その悪のために倒れることはない。義人は彼が罪を犯す時、その義のために生きることはできない。三わたしは義人に、彼は必ず生きると言つても、もし彼が自分の義をたのんで、罪を犯すなら、彼のすべての義は覚えられない。彼はみづから犯した罪のために死ぬ。四また、わたしが悪人に『あなたは必ず死ぬ』と言つても、もし彼がその罪を離れ、公道と正義とを行うならば、五すなわちその悪人が質物を返し、奪つた物をもどし、命の定めに歩み、悪を行わないならば、彼は必ず生きる。決して死なない。六彼の犯したすべての罪は彼に対して覚えられない。彼は公道と正義とを行つたのであるから、必ず生きる。七あなたの民の人々は『主の道は公平でない』と言ふ。しかし彼らの道こそ公平でないのである。八義人がその義を離れて、罪を犯すならば、彼はこれがために死ぬ。

九悪人がその悪を離れて、公道と正義とを行うならば、彼はこれによつて生きる。一〇それであるのに、あなたがたは『主の道は公平でない』と言ふ。イスラエルの家よ、わたしは各自のおこないにしたがつて、あなたがたをさばく。

三わたしたちが捕へ移された後、すなわち第十二年の十月五日に、エルサレムからのがれて来た者が、わたしのもとに来て言つた、『町は打ち破られた』と。三その者が来た前の夜、主の手がわたしに臨んだ。次の朝、その人がわたしのもとに来たころ、主はわたしの口を開かれた。わたしの口が開けたので、もはやわたしは沈黙しなかつた。

三主の言葉がわたしに臨んだ、四民の子よ、イスラエルの地の、かの荒れ跡の住民らは、語り続けて言ふ、『アブラハムはただひとりで、なおこの地を所有した。しかしわたしたちの数は多い。この地はわれわれの所有として与えられている』と。五それゆえ、あなたは彼らに言え、主なる神はこう言われる、あなたがたは肉を血のついたままで食べ、おのが偶像を仰ぎ、血を流してゐて、なおこの地を所有することができるか。六あなたがたはつるぎをたのみ、憎むべき事をおこない、おのの隣り人の妻を汚して、なおこの地を所有することができるか。七あなたは彼らに言いなさい。主なる神はこう言われる、わたしは生きてゐる。かの荒れ跡にいる者は必

ずつるぎに倒れる。わたしは野の面にいる者を、獣に与えて食わせ、要害とほら穴とにいる者は疫病で死ぬ。二わたしはこの国を全く荒す。彼の誇る力はうせ、イスラエルの山々は荒れて通る者もなくなる。三彼らがおこなつたすべての憎むべきことのために、わたしがこの国を全く荒す時、彼らはわたしが主であることを悟る。

三〇人の子よ、あなたの民の人々は、かきのかたわら家の入口で、あなたの事を論じ、たがいに語りあつて言う、『さあ、われわれは、どんな言葉が主から出るかを聞こう』と。三一彼らは民が来るようにあなたの所に来、わたしの民のようにあなたの前座して、あなたの言葉を聞く。しかし彼らはそれを行わない。彼らは口先では多くの愛を現すが、その心は利におもむいてゐる。三二見よ、あなたは彼らには、美しい声で愛の歌をうたう者のように、また楽器をよく奏する者のように思われる。彼らはあなたの言葉は聞くが、それを行おうとはしない。三三この事が起る時——これは必ず起る——そのとき彼らの中にひとりの預言者がいたことを彼らは悟る。

### 第三四章

一主の言葉がわたしに臨んだ、二人の子よ、イスラエルの牧者たちに向かつて預言せよ。預言

して彼ら牧者に言え、主なる神はこう言われる、わざわざいなるかな、自分自身を養うイスラエルの牧者。牧者は群れを養うべき者ではないか。三ところろが、あなたがたは脂肪を食べ、毛織物をまとい、肥えたものをほふるが、

群れを養わない。四あなたがたは弱った者を強くせず、病んでゐる者をいやさず、傷ついた者をつつまず、迷い出た者を引き返らせず、うせた者を尋ねず、彼らを手荒く、きびしく治めてゐる。五彼らは牧者がいないために散り、野のもろもろの獣のえじきになる。六わが羊は散らされてゐる。彼らはもろもろの山と、もろもろの高き丘にさまよい、わが羊は地の全面に散らされてゐるが、これを捜す者もなく、尋ねる者もない。

七それゆえ、牧者よ、主の言葉を聞け。八主なる神は言われる、わたしは生きてゐる。わが羊はかすめられ、わが羊は野のもろもろの獣のえじきとなつてゐるが、その牧者はいない。わが牧者はわが羊を尋ねない。牧者は自身を養うが、わが羊を養わない。九それゆえ牧者らよ、主の言葉を聞け。一〇主なる神はこう言われる、見よ、わたしは牧者らの敵となり、わたしの羊を彼らの手に求め、彼らにわたしの群れを養うことをやめさせ、再び牧者自身を養わせない。またわが羊を彼らの口から救つて、彼らの食物にさせない。

二主なる神はこう言われる、見よ、わたしは、わたしみづからわが羊を尋ねて、これを捜し出す。三牧者がその羊の散り去つた時、その羊の群れを捜し出すように、わたしはわが羊を捜し出し、雲と暗やみの日に散つた、すべての所からこれを救う。四わたしは彼らをもろもろの民の中から導き出し、もろもろの国から集めて、彼ら



の国に携え入れ、イスラエルの山の上、泉のほとり、また国のうちの人の住むすべての所でこれを養う。二四わたしは良き牧場で彼らを養う。その牧場はイスラエルの高い山にあり、その所で彼らは良い羊のおりに伏し、イスラエルの山々の上で肥えた牧場で草を食う。二五わたしはみずからわが羊を飼ひ、これを伏させると主なる神は言われる。二六わたしは、うせたものを尋ね、迷ひ出たものを引き返し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くし、肥えたものと強いものとは、これを監督する。わたしは公平をもって彼らを養う。

二七主なる神はこう言われる、あなたがた、わが群れよ、見よ、わたしは羊と羊との間、雄羊と雄やぎとの間をさばく。二八あなたがたは良き牧場で草を食ひ、その草の残りを足で踏み、また澄んだ水を飲み、その残りを足で濁すが、これは、あまりのことではないか。二九わが羊はあなたがたが、足で踏んだものを食ひ、あなたがたの足で濁したものを、飲まなければならぬのか。

三〇それゆえ、主なる神はこう彼らに言われる、見よ、わたしは肥えた羊と、やせた羊との間をさばく。三一あなたがたは、わきと肩とをもって押し、角をもって、すべて弱い者を突き、ついに彼らを外に追い散らした。三二それゆえ、わたしはわが群れを助けて、再びかすめさせず、羊と羊との間をさばく。三三わたしは彼らの上にひとりの牧者を立てる。すなわちわがしもベダビデである。彼は

彼らを養う。彼は彼らを養ひ、彼らの牧者となる。三四主なるわたしは彼らの神となり、わがしもベダビデは彼らのうちにあって君となる。主なるわたしはこれを言う。三五わたしは彼らと平和の契約を結び、国の内から野獣を追ひ払う。彼らは心を安んじて荒野に住み、森の中に眠る。二六わたしは彼らおよびわが山の周囲の所々を祝福し、季節にしたがつて雨を降らす。これは祝福の雨となる。二七野の木は実を結び、地は産物を出す。彼らは心を安んじてその国におり、わたしが彼らのくびきの棒を碎き、彼らを奴隷とした者の手から救ひ出す時、彼らはわたしに主であることを悟る。二八彼らは重ねて、もろもろの国民にかすめられることなく、地の獣も彼らを食うことはない。彼らは心を安んじて住み、彼らを恐れさせる者はない。二九わたしは彼らのために、良い栽培所を与へる。彼らは重ねて、国のききんに滅びることなく、重ねて諸国民のはずかしめを受けることはない。三〇彼らはその神、主なるわたしが彼らと共におり、彼らイスラエルの家が、わが民であることを悟ると、主なる神は言われる。三二あなたがたはわが羊、わが牧場の羊である。わたしはあなたがたの神であると、主なる神は言われる。三三第五章 一主の言葉がわたしに臨んだ、二人の子よ、あなたの顔をセイル山に向け、これに対して預言し、三これに言え。主なる神はこう言われる、セイル山よ、見よ、わたしはあなたを敵とし、わたしの手をあな

たに向かつて伸べ、あなたを全く荒し、<sup>四</sup>あなたの町々を滅ぼす。あなたは荒れはてる。そしてわたしが主であることを悟る。<sup>五</sup>あなたは限りない敵意をいだいて、イスラエルの人々をその災の時、終りの刑罰の時に、つるぎの手に渡した。<sup>六</sup>それゆえ、主なる神は言われる、わたしは生きてゐる。わたしはあなたを血にわたす。血はあなたを追いかける。あなたには血のとがあるゆえ、血はあなたを追いかける。<sup>七</sup>わたしはセイル山を全く荒し、そこに行き来する者を断ち、<sup>八</sup>その山々を殺された者で満たす。つるぎで殺された者が、あなたのものもろもの丘、<sup>九</sup>もろもの谷、もろものくぼ地に倒れる。<sup>九</sup>わたしはあなたを、永遠の荒地とし、あなたの町々には住む者がなくなる。そしてあなたがたは、わたしが主であることを悟る。

<sup>一〇</sup>あなたは言う、『これら二つの国民、二つの国はわたしのもの、われわれはこれを獲よう』と。しかし主はそこにおられる。<sup>二</sup>それゆえ、主なる神は言われる、わたしは生きてゐる。あなたが彼らを憎んで、彼らに示した怒りと、ねたみにしたがって、わたしはあなたを扱ふ。わたしがあなたをさばく時、わたし自身をあなたに示す。<sup>三</sup>あなたがイスラエルの山々に向かつて、『これは荒れはてて、われわれの食となる』と言ったものもろものそしりを、主なるわたしが聞いたことをあなたは悟る。<sup>四</sup>あなたがたは、わたしに対して口をもって誇り、

またわたしに対して、あなたがたの言葉を多くした。わたしはそれを聞いた。<sup>二</sup>主なる神はこう言われる、全地の喜びのために、わたしはあなたを荒地とする。<sup>三</sup>あなたが、イスラエルの家の嗣業の荒れるのを喜んだように、わたしはあなたに、そのようにする。セイル山よ、あなたは荒地となる。エドムもすべてそのようになる。そのとき彼らは、わたしが主であることを悟るようになる。

### 第三十六章 一人の子よ、イスラエルの山々に預言

して言え。イスラエルの山々よ、主の言葉を聞け。<sup>二</sup>主なる神はこう言われる、敵はあなたがたについて言う、『ああ、昔の高き所が、われわれのものとなった』と。<sup>三</sup>それゆえ、あなたは預言して言え。主なる神はこう言われる、彼らはあなたがたを荒し、四方からあなたがたを打ち滅ぼしたので、あなたがたは他の国民の所有となり、また民の悪いうわさとなった。<sup>四</sup>それゆえ、イスラエルの山々よ、主なる神の言葉を聞け。主なる神は、山と、丘と、くぼ地と、谷と、滅びた荒地跡と、人の捨てた町々、すなわちその周囲にある諸国民の残った者にかすめられ、あざけられるようになったものに、こう言われる。<sup>五</sup>主なる神はこう言われる、わたしはねたみの炎をもって、他の国民とエドム全国とに対して言う、彼らは心ゆくまで喜び、心に誇つてわが地を自分の所有とし、これを奪い、かすめた者である。<sup>六</sup>それゆえ、あなたは

イスラエルの地の事を預言し、山と、丘と、くぼ地と、谷とに言え。主なる神はこう言われる、見よ、あなたがたは諸国民のほずかしめを受けたので、わたしはねたみと怒りをもつて語る。セそれゆえ、主なる神はこう言われる、わたしは誓つて言う、あなたがたの周囲の諸国民は必ずほずかしめを受ける。

ハしかしイスラエルの山々よ、あなたがたは枝を出し、わが民イスラエルのために実を結ぶ。この事の成るのは近い。見よ、わたしはあなたがたに臨み、あなたがたを顧みる。あなたがたは耕され、種をまかれる。わがたしはあなたがたの上に人をふやす。これはことごとくイスラエルの家の者となり、町々には人が住み、荒れ跡は建て直される。二わたしはあなたがたの上に人と獣とをふやす。彼らはふえて、子を生む。わたしはあなたがたの上に、昔のように人を住ませ、初めの時よりも、まさる恵みをあなたがたに施す。その時あなたがたは、わたしが主であることを悟る。三わたしはわが民イスラエルの人々をあなたがたの上に歩ませる。彼らはあなたがたを所有し、あなたがたはその嗣業となり、あなたがたは重ねて彼らに子のない嘆きをさせない。四主なる神はこう言われる、彼らはあなたがたに向かつて、『あなたは人を食ひ、あなたの民に子のない嘆きをさせる』と云う。五あなたがたはもはや人を食わない。あなたの民に重ねて子のない嘆きをさせることはない、主なる神は言われ

る。六わたしは重ねて諸国民のほずかしめをあなたがたに聞かせない。あなたは重ねて、もろもろの民のほずかしめを受けることはなく、あなたの民を重ねてつまずかせることはない、主なる神は言われる。

一六主の言葉がわたしに臨んだ、一七人の子よ、昔、イスラエルの家が、自分の国に住んだとき、彼らはおのおのおこないとわざとをもって、これを汚した。そのおこないは、わたしの前には、汚れにある女の汚れのようにであつた。一八彼らが国に血を流し、またその偶像をもって、国を汚したため、わたしはわが怒りを彼らの上に注ぎ、九彼らを諸国民の中に散らしたので、彼らは国々の中に散つた。わたしは彼らのおこないと、わざとにしたがつて、彼らをさばいた。二〇彼らがその行くところの国々へ行ったとき、わが聖なる名を汚した。これは人々が彼らについて『これは主の民であるが、その国から出た者である』と言つたからである。二一しかしわたしはイスラエルの家が、その行くところの諸国民の中で汚したわが聖なる名を惜しんだ。

二三それゆえ、あなたはイスラエルの家に言え。主なる神はこう言われる、イスラエルの家よ、わたしがすることはあなたがたのためではない。それはあなたがたが行つた諸国民の中で汚した、わが聖なる名のためである。二四わたしは諸国民の中で汚されたもの、すなわち、あなたがたが彼らの中で汚した、わが大いなる名の聖なるこ



とを示す。わたしがあなたがたによって、彼らの目の前に、わたしの聖なることを示す時、諸国民はわたしが主であることを悟ると、主なる神は言われる。二四 わたしはあなたがたを諸国民の中から導き出し、万国から集めて、あなたがたの国に行かせる。二五 わたしは清い水をあなたがたに注いで、すべての汚れから清め、またあなたがたを、すべての偶像から清める。二六 わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。二七 わたしはまたわが霊をあなたがたのうちに置いて、わが定めに歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる。二八 あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住んで、わが民となり、わたしはあなたがたの神となる。二九 わたしはあなたがたをそのすべての汚れから救い、穀物と呼びよせてこれを増し、ききんをあなたがたに臨ませない。三〇 またわたしは木の実と、田畑の作物とを多くする。あなたがたは重ねて諸国民の間に、ききんのはずかしめを受けることがない。三一 その時あなたがたは自身の悪しきおこないと、良からぬわざとを覚えて、その罪と、その憎むべきこととのために、みずから恨む。三二 わたしがなすことはあなたがたのためではないと、主なる神は言われる。あなたがたはこれを知れ。イスラエルの家よ、あなたがたは自分のおこないを恥じて悔やむべきである。

三三 主なる神はこう言われる、わたしは、あなたがたのすべての罪を清める日に、町々に人を住ませ、その荒れ跡を建て直す。三四 荒れた地は、行き来の人々の目に荒地と見えたと引きかえて耕される。三五 そこで人々は言う、「この荒れた地は、エデンの園のようになった。荒れ、滅び、くずれた町々は、堅固になり、人の住む所となった」と。三六 あなたがたの周囲に残った諸国民は主なるわたしがくずれた所を建て直し、荒れた所にものを植えたということを経るようになる。主なるわたしがこれを言ひ、これをなすのである。

三七 主なる神はこう言われる、イスラエルの家は、わたしが次のことを彼らのためにするように、わたしに求めるべきである。すなわち人を群れのようにふやすこと、三八 すなわち犠牲のための群れのように、エルサレムの祝いの日の群れのようにすることである。こうして荒れた町は人の群れで満ちる。その時人々は、わたしが主であることを悟るようになる。

第三十七章 「主の手がわたしに臨み、主はわたしを主の霊に満たして出て行かせ、谷の中にわたしを置かれた。そこには骨が満ちていた。二 彼はわたしに谷の周囲を行きめぐらせた。見よ、谷の面には、はなはだ多くの骨があり、皆いたく枯れていた。三 彼はわたしに言われた、「人の子よ、これらの骨は、生き返ることができるのか」。わたしは答えた、「主なる神よ、あなたはご存じ

です。彼<sup>かれ</sup>はまたわたしに言<sup>い</sup>われた、「これらの骨<sup>ほね</sup>に預<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>して、言<sup>い</sup>え。枯<sup>か</sup>れた骨<sup>ほね</sup>よ、主<sup>しゅ</sup>の言葉<sup>ことば</sup>を聞<sup>き</sup>け。主<sup>しゅ</sup>なる神<sup>かみ</sup>はこれらの骨<sup>ほね</sup>にこう言<sup>い</sup>われる、見<sup>み</sup>よ、わたしはあなたがたのうちに息<sup>いき</sup>を入<sup>い</sup>れて、あなたがたを生<sup>い</sup>かす。六<sup>ろく</sup>わたしはあなたがたの上に筋<sup>すじ</sup>を与<sup>あた</sup>え、肉<sup>にく</sup>を生<sup>し</sup>じさせ、皮<sup>かわ</sup>でおおい、あなたがたのうちに息<sup>いき</sup>を与<sup>あた</sup>えて生<sup>い</sup>かす。そこであなたがたはわたしの主<sup>しゅ</sup>であることを悟<sup>さと</sup>る」。

七<sup>しち</sup>わたしは命<sup>いのち</sup>じられたように預<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>したが、わたしは預<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>した時<sup>とき</sup>、声<sup>こゑ</sup>があつた。見<sup>み</sup>よ、動<sup>うご</sup>く音<sup>おと</sup>があり、骨<sup>ほね</sup>と骨<sup>ほね</sup>が集<sup>あつ</sup>まつて相<sup>あひ</sup>つらなつた。八<sup>はち</sup>わたしが見<sup>み</sup>ていると、その上<sup>うへ</sup>に筋<sup>すじ</sup>ができ、肉<sup>にく</sup>が生<sup>し</sup>じ、皮<sup>かわ</sup>がこれをおおつたが、息<sup>いき</sup>はその中<sup>なか</sup>になかつた。九<sup>く</sup>時に彼<sup>かれ</sup>はわたしに言<sup>い</sup>われた、「人<sup>ひと</sup>の子<sup>こ</sup>よ、息<sup>いき</sup>に預<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>せよ、息<sup>いき</sup>に預<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>して言<sup>い</sup>え。主<sup>しゅ</sup>なる神<sup>かみ</sup>はこう言<sup>い</sup>われる、息<sup>いき</sup>よ、四方<sup>しほう</sup>から吹<sup>ふ</sup>いて来<sup>き</sup>て、この殺<sup>ころ</sup>された者<sup>もの</sup>たちの上<sup>うへ</sup>に吹<sup>ふ</sup>き、彼<sup>かれ</sup>らを生<sup>い</sup>かせ」。一〇そこでわたしは命<sup>いのち</sup>じられたように預<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>すると、息<sup>いき</sup>はこれにはい<sup>い</sup>つた。すると彼<sup>かれ</sup>らは生<sup>い</sup>き、その足<sup>あし</sup>で立<sup>た</sup>ち、はなはだ大<sup>おお</sup>いなる群<sup>ぐん</sup>衆<sup>しゅう</sup>となつた。

二<sup>に</sup>そこで彼<sup>かれ</sup>はわたしに言<sup>い</sup>われた、「人<sup>ひと</sup>の子<sup>こ</sup>よ、これらの骨<sup>ほね</sup>はイスラエルの全<sup>ぜん</sup>家<sup>か</sup>である。見<sup>み</sup>よ、彼<sup>かれ</sup>らは言<sup>い</sup>う、『われわれの骨<sup>ほね</sup>は枯<sup>か</sup>れ、われわれの望<sup>のぞ</sup>みは尽<sup>つき</sup>き、われわれは絶<sup>た</sup>え果<sup>は</sup>てる』と。三<sup>さん</sup>それゆゑ彼<sup>かれ</sup>らに預<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>して言<sup>い</sup>え。主<sup>しゅ</sup>なる神<sup>かみ</sup>はこう言<sup>い</sup>われる、わが民<sup>たみ</sup>よ、見<sup>み</sup>よ、わたしはあなたがたの墓<sup>はか</sup>を開<sup>ひら</sup>き、あなたがたを墓<sup>はか</sup>からとりあ<sup>あ</sup>げて、イス

ラエルの地<sup>ち</sup>にはい<sup>い</sup>らせる。四<sup>よ</sup>わが民<sup>たみ</sup>よ、わたしはあなたがたの墓<sup>はか</sup>を開<sup>ひら</sup>き、あなたがたをその墓<sup>はか</sup>からとりあ<sup>あ</sup>げる時<sup>とき</sup>、あなたがたは、わたしの主<sup>しゅ</sup>であることを悟<sup>さと</sup>る。五<sup>ご</sup>わたしはわが霊<sup>れい</sup>を、あなたがたのうちに置<sup>お</sup>いて、あなたがたを生<sup>い</sup>かし、あなたがたをその地<sup>ち</sup>に安<sup>あん</sup>住<sup>じゅう</sup>させる時<sup>とき</sup>、あなたがたは、主<sup>しゅ</sup>なるわたしを言<sup>い</sup>ひ、これをおこなつたことを悟<sup>さと</sup>ると、主<sup>しゅ</sup>は言<sup>い</sup>われる」。

六<sup>ろく</sup>主<sup>しゅ</sup>の言葉<sup>ことば</sup>がわたしに臨<sup>のぞ</sup>んだ、一<sup>いち</sup>人<sup>ひと</sup>の子<sup>こ</sup>よ、あなたは一本<sup>いっぼん</sup>の木<sup>き</sup>を取り、その上<sup>うへ</sup>に『ユダおよびその友<sup>とも</sup>であるイスラエルの全<sup>ぜん</sup>家<sup>か</sup>のために』と書<sup>か</sup>け。これはエフライム<sup>エフライム</sup>の木<sup>き</sup>である。七<sup>しち</sup>あなたはこれらを合<sup>あ</sup>わせて、一つ<sup>ひとつ</sup>の木<sup>き</sup>となせ。これらはあなたがたの手<sup>て</sup>で一つ<sup>ひとつ</sup>になる。八<sup>はち</sup>あなたがたの民<sup>たみ</sup>の人<sup>ひと</sup>々があなたに向<sup>むか</sup>つて、『これはなんのことであるか、われわれに示<sup>し</sup>してくれないか』と言<sup>い</sup>う時<sup>とき</sup>は、九<sup>く</sup>これに言<sup>い</sup>え、主<sup>しゅ</sup>なる神<sup>かみ</sup>はこう言<sup>い</sup>われる、見<sup>み</sup>よ、わたしはエフライム<sup>エフライム</sup>の手<sup>て</sup>にあるヨセフ<sup>ヨセフ</sup>と、その友<sup>とも</sup>であるイスラエルの部<sup>ぶ</sup>族<sup>ぞく</sup>の木<sup>き</sup>を取り、これをユダ<sup>ユダ</sup>の木<sup>き</sup>に合<sup>あ</sup>わせて、一つ<sup>ひとつ</sup>の木<sup>き</sup>となす。これらはわたしの手<sup>て</sup>で一つ<sup>ひとつ</sup>となる。一〇あなたが文字<sup>もじ</sup>を書<sup>か</sup>いた木<sup>き</sup>が、彼<sup>かれ</sup>らの目<sup>め</sup>の前<sup>まえ</sup>で、あなたの手<sup>て</sup>にあるとき、一<sup>いち</sup>あなたは彼<sup>かれ</sup>らに言<sup>い</sup>え。主<sup>しゅ</sup>なる神<sup>かみ</sup>は、こう言<sup>い</sup>われる、見<sup>み</sup>よ、わたしはイスラエルの人<sup>ひと</sup>々<sup>たち</sup>を、その行<sup>い</sup>つた国<sup>くに</sup>々<sup>々</sup>から取<sup>と</sup>り出<sup>だ</sup>し、四方<sup>しほう</sup>から彼<sup>かれ</sup>らを集<sup>あつ</sup>めて、その地<sup>ち</sup>にみちびき、

三その地で彼らを一つの民となしてイスラエルの山々におらせ、ひとりの王が彼ら全体の王となり、彼らは重ねて二つの国民とならず、再び二つの国に分れない。三彼らはまた、その偶像と、その憎むべきことどもと、もろもろのとがともって、身を汚すことはない。わたしは彼らを、その犯したすべての背信から救い出して、これを清める。そして彼らはわが民となり、わたしは彼らの神となる。

二四わがしもべダビデは彼らの王となる。彼らすべての者のために、ひとりの牧者が立つ。彼らはわがおきてに歩み、わが定めを守って行う。二五彼らはわがしもべヤコブに、わたしが与えた地に住む。これはあなたがたの先祖の住んだ所である。そこに彼らと、その子らと、その子孫とが永遠に住み、わがしもべダビデが、永遠に彼らの君となる。二六わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。これは彼らの永遠の契約となる。わたしは彼らを祝福し、彼らをふやし、わが聖所を永遠に彼らの中に置く。二七わがすみかは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわが民となる。二八そしてわが聖所が永遠に、彼らのうちにあるようになるとき、諸国民は主なるわたしが、イスラエルを聖別する者であることを悟る。

第三八章 一主の言葉がわたしに臨んだ、二人の子よ、メセクとトバルの大君であるマゴグの地のゴグに、あなたの顔を向け、これに対して預言して、三言え。主

なる神はこう言われる、メセクとトバルの大君であるゴグよ、見よ、わたしはあなたの敵となる。四わたしはあなたを引きもどし、あなたのおごにかぎをかけて、あなたと、あなたのおごのすべての軍勢と、馬と、騎兵とを引き出す。彼らはみな武器をつけ、大盾、小盾を持ち、すべてつるぎをとる者で大軍である。五ペルシャ、エチオピア、プテは彼らと共におり、みな盾とかぶとを持つ。六ゴメルとそのすべての軍隊、北の果のベテ・トガルマと、そのすべての軍隊など、多くの民もあなたと共にいる。七あなたは備えをなせ。あなたとあなたの所に集まつた軍隊は、みな備えをなせ。そしてあなたは彼らの保護者となれ。八多くの日の後、あなたは集められ、終りの年にあなたは戦いから回復された地、すなわち多くの民の中から、人々が集められた地に向かい、久しく荒れたれたイスラエルの山々に向かつて進む。その人々は国から導き出されて、みな安らかに住んでいる。九あなたはすべての軍隊および多くの民を率いて上り、暴風のように進み、雲のように地をおおう。一〇主なる神はこう言われる、その日に、あなたの心に思いが起り、悪い計りごとを企てて、二言う、『わたしは無防備の村々の地に上り、穏やかにして安らかに住む民すべてが石がきもなく、貫の木も門もない地に住む者どもを攻めよう』と。三そしてあなたは物を奪い、物をかすめ、いま人の住むようになっていた荒れ跡を攻め、また



国々から集まってきた、地の中央に住み、家畜と貨財とを持つ民を攻めようとする。三シバ、デダン、タルシシの商人、およびそのもろもろの村々はあなたに言う、『あなたは物を奪うために来たのか。物をかすめるために軍隊を集めたのか。あなたは金銀を持ち去り、家畜と貨財とを取りあげ、大いに物を奪おうとするのか』と。

四それゆえ、人の子よ、ゴグに預言して言え。主なる神はこう言われる、わが民イスラエルの安らかに住むその日に、あなたは立ちあがり、五北の果のあなたの所から来る。多くの民はあなたと共におり、みな馬に乗り、その軍隊は大きく、その兵士は強い。六あなたはわが民イスラエルに攻めのぼり、雲のように地をおおう。ゴグよ、終りの日にわたしはあなたを、わが国に攻めきたらせ、あなたをとおして、わたしの聖なることを諸国民の目の前にあらわして、彼らにわたしを知らせる。

七主なる神はこう言われる、わたしが昔、わがしもべイスラエルの預言者たちによって語ったのは、あなたのことではないか。すなわち彼らは、そのころ年久しく預言して、わたしはあなたを送って、彼らを攻めさせると言ったではないか。八しかし主なる神は言われる、その日、すなわちゴグがイスラエルの地に攻め入る日に、わが怒りは現れる。九わたしは、わがねたみと、燃えたつ怒りをもって言う。その日には必ずイスラエルの地に、大いなる震動があり、一〇海の魚、空の鳥、野の獣、

すべての地に這うもの、地のおもてにあるすべての人は、わが前に打ち震える。また山々はくずれ、がけは落ち、すべての石がきは地に倒れる。三主なる神は言われる、わたしはゴグに対し、すべての恐れを呼びよせる。すべての人のつるぎは、その兄弟に向けられる。三わたしは疫病と流血とをもって彼をさばく。わたしはみなぎる雨と、ひようと、火と、硫黄とを、彼とその軍隊および彼と共にいる多くの民の上に降らせる。三そしてわたしはわたしの大いなることと、わたしの聖なることとを、多くの国民の目に示す。そして彼らはわたしが主であることを悟る。

### 第三十九章

一人の子よ、ゴグに向かって預言して言え。主なる神はこう言われる、メセクとトバルの大君であるゴグよ、見よ、わたしはあなたの敵となる。二わたしはあなたを引きもどし、あなたを押しやり、北の果から上らせ、イスラエルの山々に導き、三あなたの左の手から弓を打ち落とし、右の手から矢を落させる。四あなたとあなたのすべての軍隊およびあなたと共にいる民たちは、イスラエルの山々に倒れる。わたしはあなたを、諸種の猛禽と野獣とに与えて食わせる。五あなたは野の面に倒れる。わたしがこれを言ったからであると、主なる神は言われる。六わたしはゴグと、海沿いの国々に安らかに住む者に対して火を送り、彼らにわたしが主であることを悟らせる。

「わたしはわが聖なる名を、わが民イスラエルのうちに知らせ、重ねてわが聖なる名を汚させない。諸国民はわたしが主、イスラエルの聖者であることを悟る。主なる神は言われる、見よ、これは来る、必ず成就する。これはわたしが言った日である。」

イスラエルの町々に住む者は出て来て、武器すなわち大盾、小盾、弓、矢、手やり、およびやりなどを燃やし、焼き、七年の間これを火に燃やす。彼らは野から木を取らず、森から木を切らず、武器で火を燃やし、自分をかすめた者をかすめ、自分の物を奪った者を奪うと、主なる神は言われる。

二その日、わたしはイスラエルのうちに、墓地をゴグに与える。これは旅びとの谷にあって海の東にある。これは旅びとを妨げる。そこにゴグとその民衆を埋めるからである。これをハモン・ゴグの谷と名づける。三イスラエルの家はこれを埋めて、地を清めるために七か月を費す。四国のすべての民はこれを埋め、これによって名を高める。これはわが栄えを現す日であると、主なる神は言われる。五彼らは人々を選んで、絶えず国の中を行きめぐらせ、地のおもてに残っている者を埋めて、これを清めさせる。七か月の終りに彼らは尋ねる。六国を行きめぐる者が行きめぐって、人の骨を見る時、死人を埋める者が、これをハモン・ゴグの谷に埋めるまで、そのかたわらに、標を建てて置く。一六ハモナの町もそこに

ある。こうして彼らはその国を清める。

一七主なる神はこう言われる、人の子よ、諸種の鳥と野の獣とに言え、みな集まってこい。わたしがおまえたちのために供えた犠牲、すなわちイスラエルの山々の上にある、大いなる犠牲に、四方から集まり、その肉を食い、その血を飲め。一八おまえたちは勇士の肉を食い、地の君たちの血を飲め。雄羊、小羊、雄やぎ、雄牛などすべてパシヤンの肥えた獣を食え。一九わたしがおまえたちのために供えた犠牲は、飽きるまでその脂肪を食べ、酔うまで血を飲め。二〇おまえたちはわが食卓について馬と、騎手と、勇士と、もろもろの戦士とを飽きるほど食べると、主なる神は言われる。

二一わたしはわが栄光を諸国民に示す。すべての国民はわたしが行ったさばきと、わたしが彼らの上に加えた手とを見る。二二この日から後、イスラエルの家はわたしが彼らの神、主であることを悟るようになる。二三また諸国民はイスラエルの家が、その悪によって捕え移されたことを悟る。彼らがわたしにそむいたので、わたしはわが顔を彼らに隠し、彼らをその敵の手に渡した。それで彼らは皆つるぎに倒れた。二四わたしは彼らの汚れと、とがとに従って、彼らを扱い、わたしの顔を彼らに隠した。二五それゆえ、主なる神はこう言われる、いまわたしはヤコブの幸福をもとに返し、イスラエルの全家をあわれみ、わが聖なる名のために、ねたみを起す。二六彼らは

その国に安らかに住み、だれもこれを恐れさせる者がな  
いようになつた時、自分の恥と、わたしに向かつてなし  
た反逆とを忘れる。二七 わたしが彼らを諸国民の中から帰  
らせ、その敵の国から呼び集め、彼らによつて、わたし  
の聖なることを、多くの国民の前に示す時、二八 彼らは、  
わたしは彼らの神、主であることを悟る。これはわたし  
が彼らを諸国民のうちに移し、またこれをその国に呼び  
集めたからである。わたしはそのひとりをも、国々のう  
ちに残すことをしない。二九 わたしは、わが霊をイスラエ  
ルの家に注ぐ時、重ねてわが顔を彼らに隠さないと、主  
なる神は言われる」。

第四〇章 一 われわれが捕え移されてから二十五  
年、都が打ち破られて後十四年、その年の初めの月の十  
日、その日に主の手がわたしに臨み、わたしをかの所に  
携えて行つた。二 すすなわち神は幻のうちに、わたしをイ  
スラエルの地に携えて行つて、非常に高い山の上におろ  
された。その山の上に、わたしと相對して、一つの町の  
ような建物があった。三 神がわたしをそこに携えて行か  
れると、見よ、ひとりの人がいた。その姿は青銅の形の  
ようで、手に麻のなわと、測りざおとを持って門に立っ  
ていた。四 その人はわたしに言った、「人の子よ、目で見  
耳で聞き、わたしがあなたに示す、すべての事を心にと  
めよ。あなたをここに携えて来たのは、これをあなたに  
示すためである。あなたの見ることを、ことごとくイス

ラエルの家に告げよ」。門の裏の間に、二つの柱は  
五 見よ、宮の外の周囲に、かきがあり、その人の手に  
六 キュビトの測りざおがあった。そのキュビトは、おの  
おの一キュビトと一手幅とである。彼が、そのかきの厚  
さを測ると、一さおあり、高さも一さおあった。六 彼が  
東向きの門に行き、その階段を上つて、門の敷居を測る  
と、その厚さは一さおあり、七 その詰め所は長さ一さお  
幅一さお、詰め所と、詰め所との間は五キュビトあり、  
八 門の廊の裏のかたわらの門の敷居は一さおあった。九 門  
の廊を測ると八キュビトあり、九 その脇柱は二キュビト、  
十 門の廊は内側にあった。一〇 東向きの門の詰め所は、こ  
なたに三つ、かなたに三つあり、三つとも同じ寸法である。  
脇柱もまた、こなたかなたともに同じ寸法である。二 門  
の入口の広さを測ると十キュビトあり、門の長さは十三  
キュビトあった。三 詰め所の前の境は一キュビト、かな  
たの境も一キュビトで、詰め所は、こなたかなたともに  
六キュビトあった。四 彼がまたこの詰め所の裏から、か  
の詰め所の裏まで、門を測ると、入口から入口まで二十  
五キュビトあった。五 彼がまた廊を測ると二十キュビト  
あり、門の廊の周囲は、すべて庭である。六 入口の門の  
前から内側の門の廊の前まで五十キュビトあり、七 詰め所  
と、門の内側の周囲の脇柱とに窓があり、廊の内側の周  
囲にも、同様に窓があり、脇柱には、しるろがあった。八  
七 彼がまたわたしを外庭に携え入れると、見よ、庭の



周囲に設けた室と、敷石とがあり、敷石の上に三十の室があった。一八敷石は門のわきにあり、門と同じ長さで、これは下の敷石である。一九彼が下の門の内の前から、内庭の外の前までの距離を測ると、百キュビトあった。二〇また彼はわたしに先だつて北へ行った。見よ、そこに外庭に属する北向きの門があった。彼はその長さと幅とを測った。二三その詰め所が、こなたに三つ、かなたに三つあり、また脇柱と廊とがあった。これらは初めの門と同じ寸法で、長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトである。三三その窓と、廊と、しゅろとは、東向きの門にあるものと同じ寸法である。そして七段の階段を経て、それに上ると、廊は内側にあった。三三内庭の門は北と東の門に向かつていた。彼が門から門までを測ると、百キュビトあった。

二四彼がまたわたしを南へ行かせると、見よ、南向きの門があった。その脇柱と廊を測ると、他と同じ寸法であった。二五これと、その廊の周囲とに、他の窓のような窓があつて、その長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトあった。二六これを上るのに七段の階段があり、その廊は内側にあった。その脇柱の上には、こなたに一つ、かなたに一つのしゅろがあつた。二七内庭には南向きの門があり、門から門まで南の方へ測ると、百キュビトあった。二八彼がわたしを南の門から内庭にはいらせ、南の門を測ると、さきのものと、同じ寸法であつた。二九その詰め

所と、脇柱と、廊とは、他のものと同じ寸法で、その門と、廊の周囲とには窓があり、門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトであつた。三〇周囲に廊があつて、その長さは二十五キュビト、幅は五キュビトである。三二その廊は外庭に面して、脇柱の上にしゅろがあり、その階段は八段であつた。

三三彼はまたわたしを内庭の東の方に携えて行って、門を測った。それは他と同じ寸法であつた。三三その詰め所と、脇柱と、廊とは、他と同じ寸法で、その門と、その廊の周囲とに窓があり、門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトである。三三その廊は外庭に面し、その脇柱の上には、こなたかなたに、しゅろがあり、その階段は八段であつた。

三四彼がまたわたしを北の門に携えて行って、これを測ると、それは他と同じ寸法であつた。三六その詰め所と、脇柱と、廊とは、他と同じ寸法で、その周囲に窓があり、門の長さは五十キュビト、幅は二十五キュビトである。三七その廊は外庭に面し、その脇柱の上には、こなたかなたに、しゅろがあり、その階段は八段であつた。

三八門の廊に戸のある室があつて、そこは燔祭の物を洗う所である。三九門の廊に、こなたに二つの台、かなたに二つの台があり、その上で、燔祭、罪祭、愆祭の物をほふるのであつた。四〇北の門の入口にある廊の外の片側に、二つの台があり、門の廊の他の側にも、二つの台が

あり、<sup>四二</sup>門のかたわら、内側に四つの台、外側に四つの台があつて、合せて八つの台である。その上で、犠牲の物をほふるのである。<sup>四三</sup>そこにまた燔祭のために四つの切り石の台があり、その長さは一キュビト半、幅は一キュビト半、高さは一キュビト、その上に燔祭および犠牲をほふる器を置くのである。<sup>四四</sup>内の周囲に、一手幅の折り釘が打ちつけてあつて、供え物の肉は、台の上に置かれるのである。

<sup>四五</sup>彼はまたわたしを、外から内庭に連れてはいった。見よ、内庭に二つの室があり、一つは北の門のかたわらにあつて南に向かい、一つは南の門のかたわらにあつて北に向かつていた。<sup>四六</sup>彼はわたしに言った、この南向きの室は、宮を守る祭司のためのもの、<sup>四七</sup>また北向きの室は、祭壇を守る祭司のためのものである。その人たちは、レビの子孫のうちのザドクの子孫であつて、主に近く仕える者たちである。<sup>四八</sup>そして彼が庭を測ると、その長さは百キュビト、幅も百キュビトで四角である。宮の前には祭壇があつた。

<sup>四九</sup>彼がわたしを宮の廊に連れて行つて、廊の脇柱を測ると、こなたも五キュビト、かなたも五キュビトであり、門の幅は十四キュビトである。門の壁は、こなたも三キュビト、かなたも三キュビトである。<sup>五〇</sup>廊の長さは二十キュビト、幅は十二キュビトであり、十の階段によつて上るのである。脇柱に沿つて、こなたに一つ、かなた

に一つの柱があつた。

**第四章** 一 彼がわたしを拝殿に連れて行つて、脇柱を測ると、こなたの幅も六キュビト、かなたの幅も六キュビトあつた。<sup>二</sup>その戸の幅は十キュビト、戸のわきの壁は、こなたも五キュビト、かなたも五キュビトあつた。彼はまた拝殿の長さを測ると四十キュビト、その幅は二十キュビトあつた。<sup>三</sup>彼がまた内にはいつて、戸の脇柱を測ると、それは一キュビトあり、戸の幅は六キュビト、戸のわきの壁は七キュビトあつた。<sup>四</sup>彼はまた拝殿の奥の室の長さを測ると二十キュビト、幅も二十キュビトあつた。そして彼はわたしに、これは至聖所であると言つた。

<sup>五</sup>彼が宮の壁を測ると、その厚さは六キュビトあり、宮の周囲の脇間の広さは、四方おのおの四キュビトあり、脇間は、室の上に室があつて三階になり、各階に三十の室がある。宮の周囲の壁には、脇間をささえる突起があつた。これは脇間が、宮の壁そのものによつてささえられないためである。<sup>七</sup>脇間は、宮の周囲の各階にある突起につれて、階を重ねて上にいくにしたがつて広くなり、宮の外部の階段が上に通じ、一階から三階へは、二階をとおつて上るのである。<sup>八</sup>わたしはまた宮の周囲に高い所のあるのを見た。脇間の基を測ると、六キュビトの一さおあつた。<sup>九</sup>脇間の外の壁の厚さは五キュビト、あき地になつてゐる高い所は五キュビトあつた。宮の

高い所と、庭の室の間には、宮の周囲に、広さ二十キユビトの所があった。二脇間の戸は、あき地になつてゐる高い所に向かつて開け、一つの戸は北に向かい、一つの戸は南に向かつていた。そのあき地になつてゐる所の幅は、周囲五キユビトであつた。

三西の方の宮の庭に面した建物は、幅七十キユビト、その建物の周囲の壁の厚さは五キユビト、長さは九十キユビトであつた。

四彼が宮を測ると、その長さは百キユビトあり、その庭と建物と、その壁は長さ百キユビト、一四また宮の東に面した所と庭との幅は百キユビトであつた。

五彼が西の方の庭に面した建物と、その壁の長さを測ると、かなた、こなたともに百キユビトであつた。

六宮の拝殿と、内部の室と、外の廊とには、羽目板があつた。七これらの三つのものの周囲には、すべて引込み枠の窓があり、宮の敷居に面して、宮の周囲は、床から窓まで、羽目板であつて、窓には、おおいがあつた。

八戸の上の空所、内室、外室ともに、羽目板であつた。内室および拝殿の周囲のすべての壁には、同じように彫刻してあつた。九すなわちケルビムと、しゅろとが彫刻してあつた。ケルプとケルプとの間に、しゅろがあり、おのおののケルプには、二つの顔があり、一〇こなたには、しゅろに向かつて、人の顔があり、かなたには、しゅろに向かつて、若じしの顔があり、宮の周囲は、すべてこ

のように彫刻してあつた。二床から戸の上まで、ケルビムと、しゅろとが、壁に彫刻してあつた。

三拝殿の柱は四角であつた。聖所の前には、木の祭壇に似たものがあつた。四その高さは三キユビト、長さは二キユビト、幅は二キユビトで、すみと、台と、壁とは、ともに木である。彼はわたしに言った、「これは主の前にある机である」。

五拝殿と聖所とには、一つの戸があり、二面その戸には、二つのとびらがあつた。すなわち二つの開き戸である。六拝殿の戸には、おのおのにケルビムと、しゅろとが、彫刻してあつて、それは壁に彫刻したものと同じである。また外の廊に面して、木の天蓋があり、二廊の壁には、こなたかなたに引込み窓と、しゅろとがあつた。

第四章 一彼はわたしを北の方の内庭に連れ出し、庭に向かつて北の方の建物に對する室に導いた。二北側にある建物の長さは百キユビト、幅は五十キユビトである。三二十キユビトの内庭に続いて、外庭の敷石に面し、三階になつた廊下があつた。四また室の前に幅十キユビト、長さ百キユビトの通路があつた。その戸は北に向かつていた。五その建物の上の室は、下の室と中の室よりも狭かつた。それは廊下のために、場所を取つたためである。六これらは三階であつて、外庭の柱のような柱は持たなかつた。それで上の室は、下および中の室よりも狭いのである。七室の外に沿つてかきがあり、



それは他の室に向かつて外庭に至る。その長さは五十キュビト、<sup>八</sup>外庭の室の長さも五十キュビトであった。宮に面する所は百キュビトであった。<sup>九</sup>これらの室の下に外庭からこれにはいるように、東側に入口があった。

外側のかきは、外庭に始まっている。

南の方で、庭と建物との前に、室があった。<sup>二</sup>北向きの室と同様に、その前に通路があり、その長さも幅も同様で、その出口もその配置もその戸も同様である。<sup>三</sup>南の室の下に、人々が通路にはいる東の入口があり、これに對して隔てのかきがあった。

<sup>三</sup>時に彼はわたしに言った、「庭に面した北の室と、南の室とは、聖なる室であつて、主に近く仕える祭司たちが、最も聖なるものを食べる場所である。その場所に彼らは、最も聖なるもの、すなわち素祭、罪祭、愆祭のものを置かなければならない。その場所は聖だからである。<sup>四</sup>祭司たちが、聖所にはいった時は、そこから外庭に出てはならない。彼らは勤めを行う衣服を、その所に置かなければならない。これは聖だからである。彼らは民衆に属する場所に近づく前に、他の衣服を着けなければならぬ。

<sup>五</sup>彼は宮の庭の内部を測り終え、東向きの門の道から、わたしを連れ出して、宮の周囲を測った。<sup>六</sup>彼が測りざおで、東側を測ると、測りざおで五百キュビトあり、<sup>七</sup>また轉じて、北側を測ると、測りざおで五百キュ

ビトあり、<sup>八</sup>また轉じて、南側を測ると、測りざおで五百キュビトあり、<sup>九</sup>また轉じて、西側を測ると、測りざおで五百キュビトあった。<sup>一〇</sup>このように、四方を測ったが、その周囲に、長さ五百キュビト、幅五百キュビトのかきがあつて、聖所と、俗の所との隔てをなしていた。

#### 第四章

<sup>一</sup>その後、彼はわたしを門に導いた。門は東に面していた。<sup>二</sup>その時、見よ、イスラエルの神の栄光が、東の方から来たが、その来る響きは、大水の響きのようで、地はその栄光で輝いた。<sup>三</sup>わたしが見た幻の様は、彼がこの町を滅ぼしに来た時に、わたしが見た幻と同様で、これはまたわたしがケバル川のほとりで見た幻のようであつた。それでわたしは顔を伏せた。<sup>四</sup>主の栄光が、東の方に面した門の道から宮にはいった時、<sup>五</sup>霊がわたしを引き上げて、内庭に導き入れると、見よ、主の栄光が宮に満ちた。

<sup>六</sup>その人がわたしのかたわらに立つた時、わたしはひとりの人、宮の中からわたしに語るのを聞いた。<sup>七</sup>彼はわたしに言った、「人の子よ、これはわたしの位のある所、わたしの足の裏の踏む所、わたしが永久にイスラエルの人々の中に住む所である。またイスラエルの家は、民もその王たちも、再び姦淫と、王たちの死体とをもつて、わが聖なる名を汚さない。<sup>八</sup>彼らはその敷居を、わが敷居のかたわらに設け、その門柱を、わが門柱のかたわらに設けたので、わたしと彼らとの間には、わずかに

壁があるのみである。そして彼らは、その犯した憎むべき事をもって、わが聖なる名を汚したので、わたしは怒りをもって、これを滅ぼした。今彼らに命じて姦淫と、その王たちの死体を、わたしから遠く取り除かせよ。そうしたら、わたしは永久に彼らの中に住む。

二 人の子よ、宮と、その外形と、設計とをイスラエルの家に示せ。彼らはその悪を恥じるであろう。二彼らがその犯したすべての事を恥じたら、彼らに、この宮の建て方、設備、出口、入口、すべての形式、すべてのおきて、すべての規定を示せ。これを彼らの目の前に書き、彼らにそのすべての規定と、おきてとを守り行わせよ。三 宮の規定はこれである。山の頂の四方の地域はみな最も聖である。見よ、これは宮の規定である。

三 祭壇の寸法はキュビトですれば、次のようである。(そのキュビトは一キュビトと一手幅である。)土台は高さ一キュビト、幅一キュビト、その周囲の縁は半キュビトである。二 祭壇の高さは、次のとおりである。地面の土台から下のかさねまで一キュビト、幅は一キュビト、また小さいかさねから大きいかさねまで四キュビト、その幅は一キュビトである。五 祭壇の炉は四キュビトで、祭壇の炉から高さ一キュビトの角が四本出ていた。六 炉は長さ十二キュビト、幅十一キュビトの四角形である。七 そのかさねは四方とも長さ十四キュビト、幅十四キュビトの四角形、その周囲の縁は幅半キュビト、その台は

四方一キュビト、その階段は東に面する。

八 彼はわたしに言った、「人の子よ、主なる神はこう言われる、祭壇を建て、その上に燔祭をささげ、これに血を注ぐ日には、次のことを祭壇の定めとせよ。九 すなわち主なる神は言われる、ザドクの子孫で、わたしに近く仕えるレビびとである祭司には、罪祭のために雄牛の子を与えよ。一〇 またその血をとって、これを祭壇の四つの角と、かさねの四すみと、周囲の縁に塗って、祭壇を清め、これをあがなえ。一一 あなたはまた罪祭の牛をとって、これを聖所の外、宮のうちの定められた所で焼け。一二 第二日に、あなたは無傷の雄やぎを、罪祭としてささげよ。すなわち雄牛で清めたように、これで祭壇を清めよ。一三 清めごとを終えたなら、無傷の雄牛の子と、群れの中の無傷の雄羊とをささげよ。一四 これを主の前に持つてきて、祭司らはその上に塩をまき、これらを燔祭として主にささげよ。一五 七日の間、あなたは日々雄やぎを罪祭とせよ。また雄牛の子と、群れの中の雄羊との無傷のものをととのえ、一六 七日の間、彼らは祭壇をあがなえ、これを清め、これを聖別しなければならぬ。一七 彼らがこれらの日を満したとき、八日目からは、祭司たちは、あなたがたの燔祭と、酬恩祭とを祭壇の上に供える。そうすれば、わたしは、あなたがたを受けいれると、主なる神は言われる。」

第四章 一 こうして、彼はわたしを連れて、聖

所の東に向いてゐる外の門に帰ると、門は閉じてあつた。二彼はわたしに言った、「この門は閉じたままにしておけ、開いてはならない。ここからだれもはいつてはならない。イスラエルの神、主が、ここからはいったのだから、これは閉じたままにしておけ。三ただ君たる者だけが、この内に座し、主の前でパンを食し、門の廊を通つてはいり、またそこから外に出よ」。

四彼はまたわたしを連れて、北の門の道から宮の前行つた。わたしが見てゐると、見よ、主の栄光が主の宮に満ちた。わたしがひれ伏すと、五主はわたしに言われた、「人の子よ、主の宮のすべてのおきてと、そのすべての規定とについて、わたしがあなたに告げるすべての事に心をとめ、目を注ぎ、耳を傾けよ。また宮にはいることを許されている者と、聖所にはいることのできない者との心せよ。六また反逆の家であるイスラエルの家に言え。主なる神は、こう言われる、イスラエルの家よ、その憎むべきことをやめよ。七すなわちあなたがたは、わたしの食物である脂肪と血とがさげられる時、心にも肉にも、割礼を受けない異邦人を入れて、わが聖所におらせ、これを汚した。また、もろもろの憎むべきものをもつて、わが契約を破つた。八あなたがたは、わが聖なる物を守る務を怠り、かえつて異邦人を立てて、わが聖所の務を守らせた。

九それゆゑ、主なる神は、こう言われる、イスラエル

の人々のうちにゐるすべての異邦人のうち、心と肉とに割礼を受けないすべての者は、わが聖所にはいつてはならない。一〇またレビびとであつて、イスラエルが迷つた時、偶像を慕い、わたしから迷い出て、遠く離れた者は、その罪を負わなければならない。二すなわち彼らはわが聖所で、仕え人となり、宮の門を守る者となり、宮に仕えるしもべとなり、民のために、燔祭および犠牲のものを殺し、彼らの前に立つて仕えなければならない。三彼らはその偶像の前で民に仕え、イスラエルの家にとつて、罪のつまずきとなつたゆゑ、主なる神は言われる、わたしは彼らについて誓つた。彼らはその罪を負わなければならない。四彼らはわたしに近づき、祭司として、わたしに仕えることはできない。またわたしの聖なる物、および最も聖なる物に、近づいてはならない。彼らはそのおこなつた憎むべきことのため、恥を負わなければならない。五しかし彼らには、宮を守る務をさせ、そのもろもろの務と、宮でなすべきすべての事とに当らせる。六しかしザドクの子孫であるレビの祭司たち、すなわちイスラエルの人々が、わたしを捨てて迷つた時に、わが聖所の務を守つた者どもは、わたしに仕えるために近づき、脂肪と血とをわたしにささげるために、わたしの前に立てと、主なる神は言われる。七すなわち彼らはわが聖所に入り、わが台に近づいてわたしに仕え、わたしの務を守る。八彼らが内庭の門にはゐる時は、麻の衣服



を着なければならぬ。内庭の門および宮の内で、務をなす時は、毛織物を身につけてはならない。八また頭には亜麻布の冠をつけ、腰には亜麻布の袴をつけなければならぬ。ただし汗の出るような衣を身につけてはならない。九彼らは外庭に出る時、すなわち外庭に出て民に接する時は、務をなす時の衣服は脱いで聖なる室に置き、ほかの衣服を着なければならぬ。これはその衣服をもつて、その聖なることを民にうつさないためである。十彼らはまた頭をそつてはならない。また髪を長くのばしてはならない。その頭の髪は切らなければならぬ。十一祭司はすべて内庭にはいる時は、酒を飲んではならない。十二また寡婦、および出された女をめぐってはならない。ただイスラエルの家の血統の処女、あるいは祭司の妻で、やもめになったものをめとらなければならぬ。十三彼らはわが民に、聖と俗との区別を教え、汚れたものと、清いものとの区別を示さなければならぬ。十四争いのある時は、さばきのために立ち、わがおきてにしたがつてさばき、また、わたしのもろもろの祭の時は、彼らはわが律法と定めを守り、わが安息日を、聖別しなければならぬ。十五死人に近づいて、身を汚してはならない。ただ父のため、母のため、むすこのため、娘のため、兄弟のため、夫をもたない姉妹のためには、近よって身を汚すことも許される。十六このような人は、汚れた後、自身のために、七日の期間を数えよ。そうすれば清ま

る。十七彼は聖所に入り、内庭に行き、聖所で務に当る日には、罪祭をささげなければならぬと、主なる神は言われる。

十八彼らには嗣業はない。わたしがその嗣業である。あなたがたはイスラエルの中で、彼らに所有を与えてはならない。わたしが彼らの所有である。十九彼らは素祭、罪祭、愆祭の物を食べる。すべてイスラエルのうちのささげられた物は彼らの物となる。二十すべての物の初なるの初物、およびすべてあなたがたのささげるもろもろのささげ物は、みな祭司のものとなる。またあなたがたの麦粉の初物は祭司に与えよ。これはあなたがたの家が、祝福されるためである。三祭司は、鳥でも獣でも、すべて自然に死んだもの、または裂き殺されたものを食べてはならない。

第四章 一あなたがたは、くじを引き、地を分けて、それを所有するときには、地の一部を聖なる地所として主にささげよ。その長さは二万五千キュビト、幅は二万キュビトで、その区域はすべて聖なる地である。二そのうち聖所に属するものは縦横五百キュビトずつであつて、それは四角である。また五十キュビトの空地をその周囲につくれ。三あなたはこの聖なる地所から長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトを測り取り、その中に聖所と至聖所とを設けよ。四これは国の中で聖なる所であつて、主に近く仕える聖所の仕え人である祭司に帰

属する。これは彼らのためには家を建てる所、聖所のた  
めには聖地となる。五また長さ二万五千キュビト、幅一  
万キュビトの別の地所は、宮に仕えるレビびとに帰属  
し、彼らの住む町のための所有とする。

六聖地として区別した部分に沿い、幅五千キュビト、長  
さ二万五千キュビトは、町の所有とせよ。これはイスラ  
エル全家のものとなる。

七また君たる者の分は、かの聖地と町の所有地との、こ  
なたかなたにある。すなわち聖地と町の所有地に沿い、  
西と東に向かい、部族の分の一つに応じて、地所の西か  
ら東の境に至り、八その所有の地所はイスラエルの中に  
ある。わたしの君たちは、重ねてわたしの民をしいたげ  
ず、部族にしたがってイスラエルの家に土地を与える。

九主なる神は、こう言われる、イスラエルの君たちよ、  
暴虐と略奪をやめ、公道と正義を行え。わが民を追い  
たててことをやめよと、主なる神は言われる。

一〇あなたがたは正しいはかり、正しいエバ、正しいバ  
テを用いよ。二エバとバテとは同量にせよ。すなわちバ  
テをホメルの十分の一とし、エバもホメルの十分の一と  
し、すべてホメルによつて量を定めよ。三一シケルは二  
十ゲラである。五シケルは五シケル、十シケルは十シケ  
ルとせよ。一ミナは五十シケルとせよ。

二三あなたがたがささげるささげ物はこれである。すな  
わち、一ホメルの小麦のうちから六分の一エバをささげ、

大麦一ホメルのうちから六分の一エバをささげよ。二油  
は一コルのうちから十分の一バテをささげよ。コルはホ  
メルと同じく十バテに当る。五またイスラエルの氏族か  
ら、家畜の群れ二百につき一頭の羊を出して、素祭、燔  
祭、酬恩祭とし、彼らのために、あがないをなせと主な  
る神は言われる。二六国の民は皆これをイスラエルの君に  
ささげ物とせよ。二七また祭日、ついたち、安息日、すな  
わちイスラエルの家のすべての祝い日に、燔祭、素祭、  
灌祭を供えるのは、君たる者の務である。すなわち彼は  
イスラエルの家のあがないのために、罪祭、素祭、燔祭、  
酬恩祭をささげなければならぬ。

二八主なる神は、こう言われる、正月の元日に、あなた  
は無傷の雄牛の子を取つて聖所を清めよ。二九祭司は罪祭  
の獣の血を取つて、宮の柱と祭壇のかさねの四すみ、お  
よび内庭の門の柱に塗れ。三〇月の七日に、あなたがたは  
過失や無知のために罪を犯した者のために、このように  
行つて宮のためにあがないをなせ。

三一正月の十四日に、あなたがたは過越の祭を祝え。七  
日の間、種入れぬパンを食べよ。三その日に君たる者は、  
自身のため、また国のすべての民のため、雄牛をささげ  
て罪祭とし、三祝日である七日の間は、七頭の雄牛と、  
七頭の雄羊の無傷のものを、七日の間毎日、燔祭として  
主に供えよ。また、雄やぎを罪祭として日々ささげよ。  
三二また素祭として麦粉一エバを各雄牛のため、一エバを

各雄羊のためにととのえ、油一ヒンを各エバに加えよ。  
二五 七月十五日の祝いに、彼は七日の間、罪祭、燔祭、素祭および油を、このように供えなければならぬ。

#### 第四 六章

「主なる神は、こう言われる、内庭に

ある東向きの門は、働きをする六日の間は閉じ、安息日にはこれを開き、またついたちにはこれを開け。二君たる者は、外から門の廊をとおってはいり、門の柱のかたわらに立て。そのとき祭司たちは、燔祭と酬恩祭とをささげ、彼は門の敷居で、礼拝して出て行くのである。しかし門は夕暮まで閉じてはならない。三 国の民は安息日と、ついたちとに、その門の入口で主の前に礼拝をせよ。四 君たる者が、安息日に主にささげる燔祭は、六頭の無傷の小羊と、一頭の無傷の雄羊とである。五 また素祭は雄羊のために麦粉一エバ、小羊のための素祭は、その人のささげうる程度とし、麦粉一エバに油一ヒンを加えよ。六 ついたちには無傷の雄牛の子一頭、六頭の小羊および一頭の雄羊をささげよ。これらはすべて無傷のものでなければならぬ。七 素祭は雄牛のために麦粉一エバ、雄羊のために麦粉一エバ、小羊のためには、その人のささげうる程度のもので供えよ。また麦粉一エバに油一ヒンを加えよ。八 君たる者がはいる時は門の廊の道からはいり、またその道から出よ。

九 国の民が、祝いに主の前に出る時、礼拝のため、北の門の道からはいる者は、南の門の道から出て行き、南

の門の道からはいる者は、北の門の道から出て行け。そのはいつた門の道からは、帰ってはならない。まっすぐに進んで、出て行かなければならない。二 彼らがいいる時、君たる者は、彼らと共にはいり、彼らが出る時、彼も出なければならぬ。

二 祭日と祝日には、素祭として、若い雄牛のために麦粉一エバ、雄羊のために麦粉一エバ、小羊のために、その人のささげうる程度のもので供え、麦粉一エバには油一ヒンを加えよ。三 また君たる者が、心からの供え物として、燔祭または酬恩祭を主にささげる時は、彼のために東に面した門を開け。彼は安息日に行うように、その燔祭と酬恩祭を供え、そして退出する。その退出の後、門は閉ざされる。

三 彼は日ごとに一歳の無傷の小羊を燔祭として、主にささげなければならぬ。すなわち朝ごとに、これをささげなければならぬ。四 彼は朝ごとに、素祭をこれに添えてささげなければならぬ。すなわち麦粉一エバの六分の一に、これを潤す油一ヒンの三分の一を、素祭として主にささげなければならぬ。これは常燔祭のおきである。五 すなわち朝ごとに常燔祭として、小羊と素祭と油とをささげなければならぬ。

六 主なる神は、こう言われる、君たる者が、もしその嗣業から、その子のひとりに財産を与える時は、それはその子らの嗣業の所有となる。七 しかし彼がその奴隷の



ひとりに、嗣業の一部分を与える時は、それは彼の解放の年まで、その人に属していて、その後は君たる人に帰るのである。彼の嗣業は、ただその子らにだけ伝わるべきである。八君たる者はその民の嗣業を取って、その財産を継がせないようにしてはならない。彼はただ、自分の財産のうちから、その子らにその嗣業を、与えなければならぬ。これはわが民のひとりでも、その財産を失わなためである」。

一九こうして彼はわたしを連れて、門のかたわらの入口から、北向きの祭司の聖なる室に、はいらせた。見ると、西の奥の方に一つの場所があった。二彼はわたしに言った、「これは祭司たちが懺祭および罪祭のものを煮、素祭のものを焼く所である。これは外庭にそれらを携えて、聖なるべきことを、民にうつさないためである」。

三彼はまたわたしを外庭に連れ出し、庭の四すみを通らせた。見よ、庭のこのすみにも庭があり、また庭のこのすみにも庭があった。三すなわち庭の四すみに小さい庭があり、長さ四十キュビト、幅三十キュビトで、四つとも同じ大きさである。三その四つの小さい庭の内部の四方には、石の壁があり、周囲の壁の下に、物を煮る所が設けてあった。二彼はわたしに言った、「これらは宮の仕え人たちが、民のささげる犠牲のものを煮る台所である」。

第四章 「そして彼はわたしを宮の戸口に帰ら

せた。見よ、水が宮の敷居の下から、東の方へ流れていた。宮は東に面し、その水は、下から出て、祭壇の南にある宮の敷居の南の端から、流れ下っていた。二彼は北の門の道から、わたしを連れ出し、外をまわって、東に向かう外の門に行かせた。見よ、水は南の方から流れ出ていた。

三その人は東に進み、手に測りなわをもって一千キュビトを測り、わたしを渡らせた。すると水はくるぶしに達した。四彼がまた一千キュビトを測って、わたしを渡らせると、水はひざに達した。彼がまた一千キュビトを測って、わたしを渡らせると、水は腰に達した。五彼がまた一千キュビトを測ると、渡り得ないほどの川になり、水は深くなつて、泳げるほどの水、越え得ないほどの川になった。六彼はわたしに「人の子よ、あなたはこれを見るか」と言った。

それから、彼はわたしを川の岸に沿って連れ帰った。七わたしが帰つてくると、見よ、川の岸のこなたかなたに、はなはだ多くの木があった。八彼はわたしに言った、「この水は東の境に流れて行き、アラバに落ち下り、その水が、よどんだ海にはいると、それは清くなる。九おおよそこの川の流れる所では、もろもろの動く生き物が皆生き、また、はなはだ多くの魚がいる。これはその水がはいると、海の水を清くするためである。この川の流れる所では、すべてのものが生きてゐる。一〇すなわける者

が、海のかたわらに立ち、エンゲデからエン・エグライムまで、網を張る所となる。その魚は、大海の魚のように、その種類がはなはだ多い。二ただし、その沢と沼とは清められないで、塩地のままで残る。三川のかたわら、その岸のこなたかなたに、食物となる各種の木が育つ。その葉は枯れず、その実は絶えず、月ごとに新しい実になる。これはその水が聖所から流れ出るからである。その実は食用に供せられ、その葉は薬となる。

三主なる神は、こう言われる、「あなたがたがイスラエルの十二の部族に、嗣業として土地を分け与えるには、その境を次のように定めなければならない。ヨセフには二つの分を与えよ。一あなたがたは、これを公平に分けよ。これはわたしが、あなたがたの先祖に与えると誓ったもので、これは嗣業として、あなたがたに属するものである。

二その地の境はこのとおりである。北は大海からヘテロンの道を経て、ハマテの入口およびゼダデに至り、一六またベロテおよびダマスコとハマテの境にあるシブライムに至り、ハウランの境にあるハザル・ハテコンに及ぶ。一七その境は海からダマスコの北の境にあるハザル・エノンにおよび、北の方はハマテがその境である。これが北の方である。

一八東の方は、ハウランとダマスコの間のハザル・エノンから、ギレアデとイスラエルの地との間の、ヨルダン

に沿い、東の海に至り、タマルに及ぶ。これが東の方である。

一九南の方はタマルからメリボテ・カデシの川に及び、そこからエジプトの川に沿って大海に至る。これが南の方である。

二〇西の方はハマテの入口に至る大海を境とする。これが西の方である。

二一あなたがたはこのように、イスラエルの部族に従って、この地をあなたがたの間に分割せよ。二あなたがたは、くじをもつて、これをあなたがたのうちに分け、またあなたがたのうちにいて、あなたがたのうちに、子を生んだ寄留の他国人のうちに分けて、嗣業とせよ。彼らは、あなたがたには、イスラエルの人々のうちの本国人と同様である。彼らもあなたがたと一緒にくじを引いて、イスラエルの部族のうちに嗣業を得るべきである。二三他国人には、その住んでいる部族のうちで、その嗣業をこれに与えなければならないと、主なる神は言われる。

第四 八章 イスラエルの部族の名は次のとおりである。北の果からヘテロンの道を経て、ハマテの入口に至り、ハマテに相對するダマスコの北の境にあるハザル・エノンに及び、東の方から西の方へのびる地方、これがダンの分である。ニダンの領地に沿って、東の方から西の方へのびる地方、これがアセルの分である。ミアセルの領地に沿って、東の方から西の方へのびる地方、

これがナフタリの方である。四 ナフタリの領地に沿って、東の方から西の方へ伸びる地方、これがマナセの方である。五 マナセの領地に沿って、東の方から西の方へ伸びる地方、これがエフライムの方である。六 エフライムの領地に沿って、東の方から西の方へ伸びる地方、これがルベンの方である。七 ルベンの領地に沿って、東の方から西の方へ伸びる地方、これがユダの方である。八 ユダの領地に沿って、東の方から西の方へ伸びる地方は、あなたがたのささげる献納地とせよ。その幅は二万五千キュビト、その東の方から西の方へ伸びる長さは、部族の一つの分に同じで、聖所はその中にある。九 すなわちあなたがたの主のささげる献納地は長さ二万五千キュビト、幅二万キュビトである。一〇 これが祭司への聖なる献納地である。すなわち祭司の分は、北は二万五千キュビト、西は幅一万キュビト、東は幅一万キュビト、南は長さ二万五千キュビトである。主の聖所はその中にある。一一 これはイスラエルの人々が迷い出た時、レビびとが迷ったように迷ったことはなく、わが務を守り通したザドクの子孫のうちから、聖別された祭司に属する。一二 このようにレビびとの境に沿って、いと聖なる地、すなわち聖なる献納地が、特別な分として彼らに帰属する。一三 レビびとの分は祭司の所有地の境に沿って、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビト、すなわち、そのすべての長さ二万五千キュビト、幅二万キュビトである。

一四 彼らはこれを買ってはならない、また交換してはならない。またその大事な分を手ばなしてはならない。これは主に属する聖なる物だからである。一五 その残りの地すなわち幅五千キュビト、長さ二万五千キュビトは町のため、すみかのため、また郊外のための一般人の地所とせよ。町はその中に置け。一六 一般人の地所の広さは次のとおりである。すなわち北の方四千五百キュビト、南の方四千五百キュビト、東の方四千五百キュビト、西の方四千五百キュビトである。一七 町は郊外を含む。郊外は北二百五十キュビト、南二百五十キュビト、東二百五十キュビト、西二百五十キュビトである。一八 聖なる献納地に沿っている残りの地の長さは東へ一万キュビト、西へ一万キュビトである。これは聖なる献納地に沿っており、その産物は町の働き人の食物となる。一九 町の働き人は、イスラエルのすべての部族から出て、これを耕作するのである。二〇 あなたがたがささげる献納地の全体は二万五千キュビト四方である。これは町の所有地と共に聖なる献納地である。二一 聖なる献納地と町の所有地との、こなたかなたの残りの地は、君たる者に属する。これは聖なる献納地の二万五千キュビトに面して東の境に至り、西はその二万五千キュビトに面して西の境に至り、部族の分に沿うもので、君たる者に属する。聖なる献納地と、宮の聖所とは、その中にある。二三 町の所有地は、君たる者に属する部分



の中にあり、そして君たる者の分は、ユダの領地と、ベニヤミンの領地との間にある。

三 なお残りの部族では東の方から西の方に至る地方、これがベニヤミンの分である。二四 ベニヤミンの領地に沿って、東の方から西の方に至る地方、これがシメオンの分である。二五 シメオンの領地に沿って、東の方から西の方に至る地方、これがイツサカルに分である。二六 イツサカルの領地に沿って、東の方から西の方に至る地方、これがゼブルンの分である。二七 ゼブルンの領地に沿って、東の方から西の方に至る地方、これがガドの分である。二八 南の方はガドの領地に沿って、タマルからメリボテ・カデシの水に至り、そこからエジプトの川に沿って大海に至る。二九 これはあなたがたが、くじをもってイスラエルの部族のうちに分けて、嗣業とすべき地である。これ

が彼らの分であると、主なる神は言われる。

三〇町の出口は次のとおりである。北の方の長さは四千五百キュビトである。三町の門はイスラエルの部族の名にしたがい、三つの門になっている。すなわちルベンの門、ユダの門、レビの門である。三二東の方は四千五百キュビトであつて、三つの門がある。すなわちヨセフの門、ベニヤミンの門、ダンの門である。三三南の方は四千五百キュビトであつて、三つの門がある。すなわちシメオンの門、イツサカルの門、ゼブルンの門である。三四西の方は四千五百キュビトであつて、三つの門がある。すなわちガドの門、アセルの門、ナフタリの門である。三五町の周囲は一万八千キュビトあり、この日から後、この町の名は『主そこにいます』と呼ばれる」。